新潟県埋蔵文化財調査事業団年報

令和２年度
（2020）

公益財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団

新潟県埋蔵文化財調査事業団年報

令和２年度
（2020）

公益財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

埋蔵文化財は、新潟県はもとよりわが国の歴史や文化を正しく理解するために欠くことができないものであり、かつ将来の文化の発展向上のために適切に保存・活用していくべき貴重な文化遺産です。

当事業団は、平成４（1992）年に新潟県が出資して設立したもので、組織の中心的な事業である発掘調査及び整理・報告書刊行のほか、埋蔵文化財保護に関する普及啓発・資料管理などに努めています。平成 26 年度には公益財団法人として再スタートを切り、現在に至っています。本書は、令和２（2020）年度に新潟県から委託を受けて実施した事業の概要や成果などをまとめたものです。

発掘調査は国道交通省事業関連の 10 遺跡、31,364m^2 を実施しました。このうち、縄文時代後期前葉の大規模集落である村上市上野遺跡（国道７号朝日温海道路）では、焼けた人骨が大量に遺棄された土坑が検出され、当時の葬送を知る上で貴重な発見となりました。竹ノ下遺跡（国道７号朝日温海道路）は村上市山北地区に所在する遺跡で、平安時代から室町時代の集落を調査しました。山北地区で古代から中世の遺跡が発掘調査されるのは今回が初めてです。金屋遺跡（国道 253 号八箇峠道路）では県内で初めて平安時代の鉄製馬具が出土し、上越市舘遺跡（国道 253 号上越三和道路）では、「田人（とうど）」と刻書された平安時代の土器が確認されました。

整理作業は、村上市上野遺跡（国道７号朝日温海道路）、阿賀野市境塚遺跡（国道 49 号阿賀野バイパス）、南魚沼市六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡（国道 17 号六日町バイパス）、の４遺跡について行いました。発掘調査や整理作業、行事の情報は、年４回刊行の広報紙『埋文にいがた』やホームページや SNS 等で随時公表したほか、４遺跡で現地説明会等を開催し、延べ 443 人の参加者がありました。

普及啓発事業関係では、「縄文の巨木柱とマツリ －糸魚川市寺地遺跡－」、「越後争乱ノコト」、「発掘！新潟の遺跡 2020」の年３回の企画展、新潟県埋蔵文化財センター講演会、大人を対象とした埋蔵文化財センター見学会、遺跡発掘調査報告会（第 24 回）などを実施し、多くの方々に参加していただきました。また、火起こしや勾玉作りなどの体験を取り入れた校外学習支援や学校に出土品を持参して考古学の魅力を語る出前授業、少年少女考古学教室では発掘体験を行い児童・生徒に対して埋蔵文化財の価値や保存の大切さ、古の人々の生活や知恵を学ぶ楽しさを知る機会を提供できたものと考えています。

最後に日ごろ当事業団の事業に御理解・御協力をいただいている関係各位に対し、厚くお礼を申し上げますとともに、今後のさらなる事業の推進に向け、一層の御支援をお願いいたします。

令和３年８月

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

理事長　稲　荷　善　之

目　　次

Ⅰ　（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団の概要

1　目的及び事業 …… 1
2　設立年月日 …… 1
3　基 本 財 産 …… 1
4　組　　織 …… 1
5　役員及び職員 …… 2
6　理事会・評議員会 …… 2
7　予算及び決算 …… 3
8　主 な 行 事 …… 4

Ⅱ　発掘調査・整理事業

1　本発掘調査実績一覧 …… 6
2　本発掘調査位置図 …… 6
3　本発掘調査 …… 7
　竹ノ下遺跡　（国道７号朝日温海道路） …… 7
　上 野 遺 跡（Ⅳ）　（国道７号朝日温海道路） …… 9
　境 塚 遺 跡（Ⅴ）・山口野中遺跡（Ⅳ）　（国道 49 号阿賀野バイパス） …… 11
　丘 江 遺 跡（Ⅸ）・山 崎 遺 跡（Ⅳ）　（国道８号柏崎バイパス） …… 12
　金 屋 遺 跡（Ⅳ）　（国道 253 号八箇峠道路） …… 14
　舘　遺　跡（Ⅱ）・古屋敷割遺跡（Ⅱ）　（国道 253 号上越三和道路） …… 16
　下 割 遺 跡（Ⅷ）　（国道 253 号上越三和道路） …… 18
4　整理・報告作業 …… 20
5　令和２年度刊行報告書 …… 20
6　保 存 処 理 …… 21

Ⅲ　普及啓発事業

1　現地説明会 …… 23
2　企画展・常設展 …… 23
3　発掘！新潟の遺跡 2020 展・遺跡発掘調査報告会・講演会 …… 25
4　校外学習・体験イベント …… 25
5　入 館 者 数 …… 27
6　出土品の管理 …… 28
7　広　　報 …… 28
8　図　　書 …… 29

Ⅳ　研修・各種委員会

1　職 員 研 修 …… 30
2　安全衛生委員会 …… 31

Ⅴ　市町村及び関係機関等への協力 …… 32

Ⅰ　（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団の概要

1　目的及び事業

県内における埋蔵文化財の調査及び研究、保護思想の普及、啓発などを行い、本県文化の向上に寄与することを目的として次の事業を行う。

ア　埋蔵文化財の調査及び研究

イ　埋蔵文化財保護思想の普及

ウ　埋蔵文化財調査技術の指導及び研修

エ　出土遺物の保存処理

オ　埋蔵文化財に関する資料の収集、保存及び刊行

2　設立年月日

平成４（1992）年３月31日

3　基本財産

3,000万円（県の出捐）

4　組　　織

（令和２年４月１日現在）

評議員会

評議員（4）

理事会

理事長（1）――― 専務理事（1）――― 理事（2）

監事（2）

事務局（職員総数32）

事務局長（1）
- 総務課長（1）――― 職員（1）嘱託員（3）
- 【本発掘調査・整理】
  調査課長（1）――― 課長代理（2）――― 職員（4）嘱託員（7）
- 【普及・資料・保存処理】
  普及・資料課長（1）―― 課長代理（1）――― 職員（1）嘱託員（9）

5　役員及び職員

（令和２年４月１日現在）

役　　員

【評議員】（４名）　小林　昌二　寺﨑　裕助　橋本　博文　東海林　晃

【理事会】（６名）

理　事　長　稲荷　善之（新潟県教育委員会教育長）
理　　事　清野　一善（専務理事）　笠原　英一　遠藤　和典
監　　事　豊田　智　山田　修

職　　員

職　名	氏　名	職　名	氏　名	職　名	氏　名
事務局長	清野　一善	調査課長	春日　真実	普及・資料課長	滝沢　規朗
		【本発掘調査】		【普及・資料・保存】	
総務課長	五十嵐大介	課長代理	佐藤　友子	課長代理	荒川　隆史
班　長	小野澤浩嗣	〃	石川　智紀	班　長	高杉　晋平
嘱託員	３名	専門調査員	飯坂　盛泰	嘱託員	８名
		文化財調査員	中島　愛理		
		再雇用嘱託員	鈴木　俊成		
		【整　理】			
		班　長	田中　祐樹		
		〃	田海　義正		
		嘱託員	７名		

6　理事会・評議員会

会議名	開催日	付議事項等
第１回定例理事会 （決議の省略）	令和２年５月29日	1　令和元年度事業報告 2　令和元年度決算 3　任期満了に伴う次期役員候補者の推薦 4　定時評議員会の開催 5　事業団派遣職員給与規程の一部改正
定時評議員会 （決議の省略）	令和２年６月16日	1　令和元年度事業報告 2　令和元年度決算 3　理事の任期満了に伴う改選 4　監事の任期満了に伴う改選
臨時理事会 （決議の省略）	令和２年６月16日	1　理事長及び専務理事の選定
第２回定例理事会	令和３年３月24日	1　令和２年度事業計画の一部変更 2　令和２年度収支補正予算 3　令和３年度事業計画 4　令和３年度収支予算 5　評議員の辞任に伴う補欠選任候補者の推薦

7　予算及び決算

令和２年度収支決算書

（令和２年４月１日から令和３年３月31日まで）

収　入　の　部

（単位：円）

科目 大	科目 中	当初予算額	補正後予算額 a	決算額 b	増減 (b－a)	備考
基本財産運用収入	基本財産利息収入	3,000	3,000	3,006	6	
事業収入	発掘調査受託収入	1,157,401,000	1,054,163,000	1,054,163,542	542	
	センター管理運営受託収入	15,795,000	16,897,000	16,897,000	0	
	（センター管理業務受託収入）	4,941,000	4,837,000	4,836,600	−400	
	（保存処理業務受託収入）	3,200,000	3,200,000	3,200,000	0	
	（普及啓発業務受託収入）	6,764,000	7,866,000	7,866,000	0	
	（センター維持修繕業務収入）	890,000	994,000	994,400	400	
補助金収入	国庫補助金収入	2,478,000	2,478,000	2,478,000	0	
	地方公共団体補助金収入	1,239,000	1,239,000	1,239,000	0	
雑収入	雑収入	25,000	13,000	17,870	4,870	
当期収入合計 A		1,176,941,000	1,074,793,000	1,074,798,418	5,418	
前期繰越収支差額		280,000	280,000	280,295	295	
収入合計 B		1,177,221,000	1,075,073,000	1,075,078,713	5,713	

支　出　の　部

（単位：円）

科目 大	科目 中	当初予算額	補正後予算額 a	決算額 b	増減 (b－a)	備考
受託事業費支出						
	発掘調査費支出	1,060,060,000	961,277,000	961,277,390	390	
	（国土交通省発掘調査費）	1,060,060,000	961,277,000	961,277,390	390	
	センター管理業務費支出	4,941,000	4,837,000	4,836,600	−400	
	保存処理業務費支出	3,200,000	3,200,000	3,200,000	0	
	普及啓発業務費支出	6,764,000	7,866,000	7,866,000	0	
	センター維持修繕業務費支出	890,000	994,000	994,400	400	
補助事業費支出						
	補助事業費支出	4,956,000	4,956,000	4,956,000	0	
管理費支出						
	総務費支出	191,000	139,000	109,300	−29,700	
	管理費支出	95,911,000	91,508,000	91,537,852	29,852	
当期支出合計 C		1,176,913,000	1,074,777,000	1,074,777,542	542	
当期収支差額（A−C）		28,000	16,000	20,876	4,876	
次期繰越収支差額		308,000	296,000	301,171	5,171	

8 主 な 行 事

【令和２年】

４月１日　辞令交付
　　２日　初任者研修
　　10日　春季企画展「縄文の巨木柱とマツリ －糸魚川市寺地遺跡－」開会　８月23日まで
　　18日　臨時閉館（5月11日まで）

５月22日　会計（監事）監査（平成31・令和元年度）
　　29日　令和２年度 第１回定例理事会（決議の省略）

６月１日　職員健康診断（各自受診）、９月末日まで
　　９日　安全衛生委員会巡視①（村上市竹ノ下遺跡）
　　11日　全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会（Web開催）
　　12日　安全衛生委員会巡視②（上越市下割遺跡Ⅷ・舘遺跡Ⅱ・古屋敷割遺跡Ⅱ）
　　16日　令和元年度 第１回定例評議員会（決議の省略）
　　26日　『埋文にいがた』111号　発行
　　28日　少年少女考古学教室第１回（新潟県埋蔵文化財センター　以下、埋文センター）

７月

８月20日　安全衛生委員会巡視③（村上市上野遺跡Ⅳ）
　　21日　少年少女考古学教室第２回（村上市上野遺跡ほか）
　　23日　新潟県埋蔵文化財センター講演会　第３回（埋文センター）
　　＊第１・２回は中止
　　26日　文化庁令和２年度第１回埋蔵文化財担当職員等講習会（オンライン）

９月４日　秋期企画展「越後争乱ノコト」開会　12月13日まで
　　６日　新潟県埋蔵文化財センター講演会　第４回（埋文センター）
　　８日　安全衛生委員会巡視④（南魚沼市金屋遺跡Ⅳ）
　　12日　舘遺跡現地説明会（上越市）
　　15日　安全衛生委員会巡視⑤（柏崎市丘江遺跡Ⅸ）
　　18日　『令和元年度 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』発行
　　25日　『埋文にいがた』112号　発行

10月18日　少年少女考古学教室第３回（埋文センター）
　　25日　新潟県埋蔵文化財センター講演会　第５回（埋文センター）
　　27日～31日　下割遺跡遺物展示会（上越市下割遺跡調査事務所）

11 月 3 日　上野遺跡現地説明会（村上市）
3 ～ 7 日　金屋遺跡Ⅳ遺物展示会（南魚沼市金屋遺跡調査事務所）
4 日　文化行政課連絡調整会議（書面開催）
6 日　避難訓練・安全衛生関連講習
8 日　新潟県埋蔵文化財センター講演会　第 6 回（埋文センター）
18 日　新潟県埋蔵文化財センター見学会
19 日　安全衛生委員会巡視⑥（山崎遺跡Ⅳ）
27 日　安全衛生委員会巡視⑦（埋文センター内）
29 日　新潟県埋蔵文化財センター講演会　第 7 回（埋文センター）

12月 6 日　少年少女考古学教室④（埋文センター）
6 日～ 1 月 11 日　少年少女考古学教室展示会
11 日　市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修①（埋文センター）
23 日　新潟県埋蔵文化財センター追加講演会（埋文センター）
25 日　冬季企画展「発掘！新潟の遺跡 2020」開会、3 月 28 日まで
『埋文にいがた』113 号　発行

【令和 3 年】
1 月24 日　新潟県埋蔵文化財センター講演会　第 7 回（埋文センター）

2 月18・19 日　市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修③（新潟県庁）
21 日　新潟県埋蔵文化財センター講演会　第 8 回（埋文センター）1

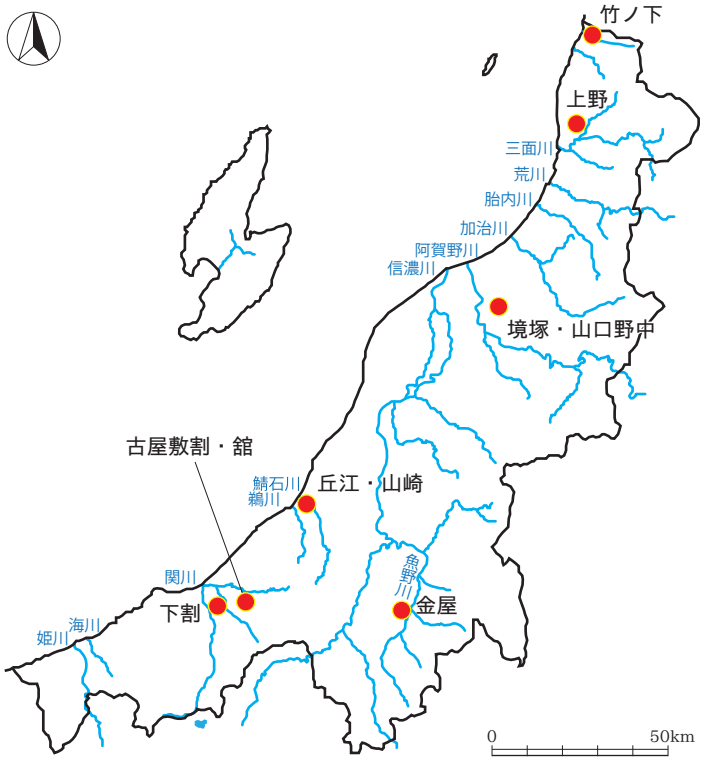
3 月 5 日　文化行政課連絡調整会議（自治会館）
7 日　第 24 回遺跡発掘報告会
15 日　『埋文にいがた』114 号　発行
24 日　令和 2 年度 第 2 回定例理事会（自治会館）

Ⅱ　発掘調査・整理事業

1　本発掘調査実績一覧

事業者		路　線	遺跡名（回数）	所在地	調査期間	面積（依頼）	面積（実質）	主な時代	主な遺構・遺物	担当者	報告書刊行予定	備考
国土交通省	羽越河川国道事務所	国道７号 朝日温海道路	竹ノ下	村上市堀ノ内	5/11～9/23	800	2,558	古代 中世	掘立柱建物、竪穴建物、鍛冶炉、集石遺構、土坑、ピット 青磁、白磁、珠洲焼、瀬戸・美濃焼、土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器	石川智紀	令和３年度以降	支援：吉田・帆苅・小柳特定共同企業体
	新潟国道事務所	国道７号 朝日温海道路	上野（Ⅳ）	村上市猿沢・桧原	5/11～12/9	4,985	8,294	縄文	石囲炉、焼土、土坑、埋設土器、溝、道（階段状遺構）、廃棄場、ピット 縄文土器、土製品、石器、石製品	石川智紀	令和３年度以降	支援：吉田・帆苅・小柳特定共同企業体
		国道 49 号 阿賀野バイパス	境塚（Ⅴ）	阿賀野市月崎	1/26～2/5	60	60	中世	溝、性格不明遺構、ピット	高橋　均 （㈱帆苅組）	令和３年度以降	全委託 監理：石川智紀
			山口野中（Ⅳ）	阿賀野市山口	2/16～3/9	310	310	中世	溝	高橋　均 （㈱帆苅組）	令和３年度以降	全委託 監理：石川智紀
	長岡国道事務所	国道８号 柏崎 BP	丘江（Ⅸ）	柏崎市田塚３丁目ほか	5/11～12/19	7,472	5,772	弥生 中世 近世	水田区画、井戸、土坑、溝、ピット、木杭、河川跡 弥生土器、石器、土師器・須恵器・陶磁器、石製品、木製品、金属製品	継　実 （藤村クレスト㈱）	令和３年度以降	全委託 監理：鈴木俊成
			山崎（Ⅳ）	柏崎市田塚２丁目	10/28～12/4	500	299	弥生 古代 中世	堀立柱建物、井戸、土坑、溝、ピット、不明遺構 土器・陶磁器、石製品、木製品	継　実 （藤村クレスト㈱）	令和３年度以降	全委託 監理：鈴木俊成
		国道 253 号 八箇峠道路	金屋（Ⅳ）	南魚沼市余川地内	8/3～12/9	1,600	1,053	古代	掘建柱建物、竪穴建物、土坑、溝、ピット、土器集積遺構、焼土遺構、不明遺構 土師器、須恵器、石製品、金属製品（鉄製紡錘車･馬具等）、土製品	南波　守 （㈱大石組）	令和３年度以降	全委託 監理：田中祐樹
	高田河川国道事務所	国道 253 号 上越三和道路	古屋敷割（Ⅱ）	上越市三和区上広田	5/25～6/30	405	488	古墳 古代 中世	自然流路、井戸、ピット、溝 須恵器、土師器	飯坂盛泰	令和３年度以降	支援：㈱島田組
			舘（Ⅱ）	上越市駒林	4/14～10/27	5,256	5,256	古墳 古代 中世	掘立柱建物、井戸、土坑、ピット、溝 自然流路 須恵器、土師器、石製品、木製品、鉄滓	飯坂盛泰	令和３年度以降	支援：㈱島田組
			下割（Ⅷ）	上越市米岡・北田中・鶴町	4/8～12/24	7,543	7,274	縄文 古墳 古代 中世 近世	掘建柱建物、井戸、屋敷地区画溝、畑作溝、土坑、地下式坑、ピット、土器集中遺構、焼土遺構、不明遺構 土器･陶磁器、鉄製品（紡錘車ほか）、銅製品（小柄ほか）、石製品、木製品（舟形ほか）	佐藤友子	令和３年度以降	支援：㈱ノガミ
合　計						28,931	31,364					

2　本発掘調査遺跡位置図



3　本 発 掘 調 査

竹ノ下遺跡（7・8 頁）
事業名：国道７号朝日温海道路
所在地：村上市堀ノ内
面積：2,558m²

上 野 遺 跡（Ⅳ）（9・10 頁）
事業名：国道７号朝日温海道路
所在地：村上市猿沢・桧原
面積：8,294m²

境 塚 遺 跡（Ⅴ）（11 頁）
事業名：国道 49 号阿賀野バイパス
所在地：阿賀野市月崎
面積：60m²

山口野中遺跡（Ⅳ）（11 頁）
事業名：国道 49 号阿賀野バイパス
所在地：阿賀野市山口
面積：310m²

丘 江 遺 跡（Ⅸ）（12・13 頁）
事業名：国道８号柏崎 BP
所在地：柏崎市田塚３丁目ほか
面積：5,772m²

山 崎 遺 跡（Ⅳ）（12・13 頁）
事業名：国道８号柏崎 BP
所在地：柏崎市田塚２丁目
面積：299m²

金 屋 遺 跡（Ⅳ）（14・15 頁）
事業名：国道 253 号八箇峠道路
所在地：南魚沼市余川地内
面積：1,053m²

古屋敷割遺跡（Ⅱ）（16・17 頁）
事業名：国道 253 号上越三和道路
所在地：上越市三和区上広田
面積：488m²

舘　遺　跡（Ⅱ）（16・17 頁）
事業名：国道 253 号上越三和道路
所在地：上越市駒林
面積：5,256m²

下 割 遺 跡（Ⅷ）（18・19 頁）
事業名：国道 253 号上越三和道路
所在地：上越市米岡・北田中・鶴町
面積：7,274m²

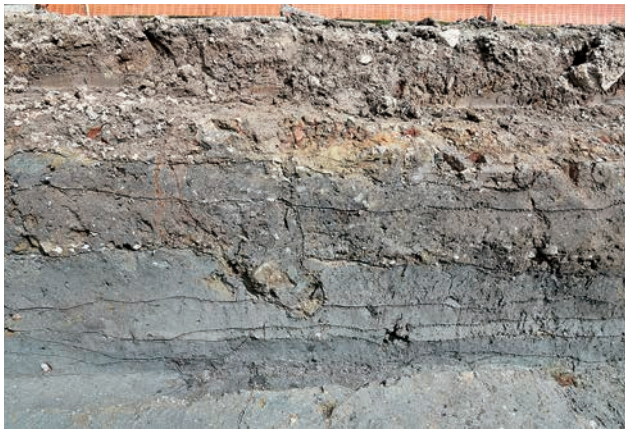
竹ノ下遺跡（たけのした）

事業名：国道７号朝日温海道路
所在地：村上市堀ノ内地内
面　積：2,558㎡

■ **遺跡の立地と調査の概要**　遺跡は大川（おおかわ）右岸の河岸段丘と段丘下の沖積微高地に立地し、河口から約 1km 内陸に位置する。標高は段丘で約 12m、沖積平野で約 7m である。遺跡の南に大川の氾濫原が広がり、北が段丘崖となるため、沖積微高地は幅が南北 20m 程度と非常に狭い。調査着手前の現況はいずれも水田であった。段丘は包含層がほとんど欠失しており、遺構数も少ない。時期は中世以降である。沖積微高地は、生活面が中世と古代の２面あり、中世は掘立柱建物や土坑、古代は竪穴建物や鍛冶炉など多くの遺構を検出した。

■ **層　序**　段丘と沖積地は土壌及び堆積由来が異なるため、層序は対応しない。段丘は、遺跡の北東に位置する沢から供給されたと推測される土石流の影響を受けており、シルトと礫・砂層の互層となっている。沖積地の層序はシルトを基本とし、Ⅰ層（盛土）、Ⅱ層（水田耕作土）、Ⅲ層（圃場整備時の整地層）、Ⅳ・Ⅴ層（旧耕作土）、Ⅵ層（中世遺物包含層）、Ⅶ層（中世遺構検出面①）、Ⅷ層（古代遺物包含層・中世遺構検出面②）、Ⅸ層（古代遺構検出面）である。Ⅲ～Ⅶ層には泥岩礫

● 調 査 区 全 景（北東から）



● 沖積地の層序（北西から）

● 位　置　図（1：50,000）　（国土地理院５万分の１地形図 「温海」平成２年発行）

が多く含まれており、段丘崖の崩落等により供給されたと考えられる。

■ **遺　構**　古代は、竪穴建物４棟以上、掘立柱建物３棟以上、鍛冶炉２基、土坑４基、溝３条、ピット多数が検出された。竪穴建物は、包含層と埋土の識別が困難であったこともあり、火床が露呈した段階で確認したケースが多い。このため、掘形上部を欠失した竪穴が大半である。火床は、カマド本体と煙道が確認できなかったことと、竪穴との位置関係から炉と推測されるものが多いが、９世紀以降の竪穴であることから判断を保留している。鍛冶炉は、周辺から鉄滓が多く出土しており、鉄鍛冶に関連する遺構と考えられる。SH413 とした鍛冶炉は高火度のため地面が赤黒く硬化しており、炉の内側には鉄滓の付着も見られた。鍛冶炉周辺には柱穴が多数検出されており、覆屋があった可能性がある。

● **竪 穴 建 物 群**（北から）

● **鍛冶炉（SH413）**（南西から）

中世は、梁間２間・桁行５間の主屋に、東に３間・西に２間分の柱穴列が伴う大型の掘立柱建物が検出された。主屋の柱穴は掘形が 50cm 前後で、礎板の代わりに平石を置いたものや、根固めに拳大の礫を詰め込んだものが多く見られた。上屋構造を支えるための地業と考えられる。同時併存したと推測される建物は１棟しかない。現状では単独で大型の掘立柱建物が建てられていた状況を呈しており、今後建物の性格や機能の検証が必要となろう。

● **大型掘立柱建物**（北東から）

■ **遺　物**　遺物は、土器・陶磁器・土製品・石製品・鉄滓・金属製品・木製品が収納箱（内寸約 54 × 34 × 10cm）換算で 20 箱出土した。土器・陶磁器は、破片のみで出土量も少ない。中世は、通常集落遺跡から一定量出土する摺鉢や甕がわずかであり、組成にやや偏りが見られる。古代は鉄滓が多量に出土した。また、施釉陶器の出土が注目される。ほかに製塩土器や土錘などがあり、鉄鍛冶以外に漁猟・製塩を行っていた可能性がある。

■ **まとめ**　村上市北部（旧山北町（さんぼくまち））は、山地が 95% を占め平野が極端に少ないこともあって、弥生時代以降の周知の遺跡はごくわずかしかない。今回の調査で、長らく不明であった古代と中世集落の一端が明らかになった。古代は鍛冶遺構群が検出されたことが特筆される。古代の北方政策を鑑みながら、村上市西部遺跡群なども含めて東北と県北部との関係を検討していく必要があろう。中世は、前半期の大型掘立柱建物を伴う集落の存在が明らかになった。瀬波郡絵図に描かれた『大川之町』成立以前であり、鎌倉幕府による地頭設置以降の府屋周辺における開発を考えるうえで注目される。　（(株) 吉田建設　笹澤正史）

上野遺跡（Ⅳ）

事業名：国道７号朝日温海道路
所在地：村上市猿沢・桧原地内
面　積：8,294㎡

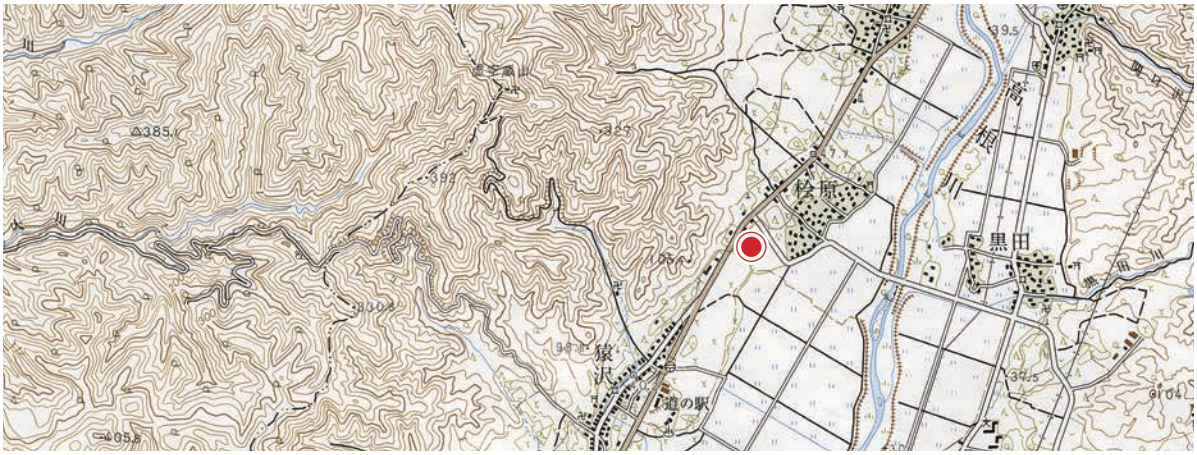
■ **遺跡の立地と調査の概要**　遺跡は三面川の支流である高根川右岸の丘陵裾部に位置し、北西から南東へ緩やかに下る扇状地の扇端付近に立地する。遺跡の中心部の現標高は約 35～39m である。遺跡は縄文時代後期前葉（約 4,000 年前）を主体とした集落で、居住域や廃棄場がある集落部。その南側に広がる土砂流などが堆積した砂礫部（低地部）に大きく分けることができる。今年度は集落部の南側と砂礫部（低地部）の一部、その間をつなぐ斜面部を調査した。

● 調 査 区 全 景（南から）

■ **層　序**　表面を覆うⅠ層より下の層序は、集落部と砂礫部で大きく異なる。堆積状況は複雑な様相を示し、調査年度の状況によって基本層序の呼称が変更されているが、今年度の層序は昨年度と一致させた。

集落部では縄文時代後期前葉の遺物包含層が４層（面）確認され、各層に対応した遺構・遺物が見つかった。包含層は色調が黄褐色系（Y 層）と黒褐色系（BK 層）に大きく分けることができ、上位から Y1 層、BK1 層、Y2 層、BK2 層とした。Y2 層は花崗岩が風化した砂礫層を含み、西側の丘陵から流れ込んだ堆積層と考えられる。黒褐色系の層も本来は同様の起源と考えられるが、遺構も多く築かれているので、比較的安定した環境で土壌化したことが窺える。

縄文時代後期ごろの砂礫部は、集落部と比べて一段低くなっており、その後の土砂流や河川などで運ばれた土砂（砂礫）によって、完全に埋没していた。表土層（Ⅰ層）より下位を、過年度調査の層名と重複しないように、E1～８層（群）に大別している。各層（群）内には土質・色調が異なる層が複数層存在することから、長期間にわたって繰り返し堆積したものと思われる。ほぼ全ての層位に縄文時代後期の遺物が含まれるので、集落廃絶後に集落部を巻き込みながら流れてきたことが分る。また、全域で縄文時代後期より後の地震による噴砂、断層、地層の変形などの堆積層の乱れが認められる。



● 位　置　図（1：50,000）　（国土地理院５万分の１地形図 「塩野町」平成 15 年発行・「村上」平成 10 年発行）

■ **遺　構**　集落部（斜面部含む）はY1層とBK1層の途中までを調査し、石囲炉12基、焼土34か所、土坑26基、集石・配石・立石5基、ピット（小穴）144基、埋設土器17基、溝状遺構10基、自然流路5条などを検出した。石囲炉や焼土の一部は建物の付属施設と考えられるが、竪穴建物のような掘り込みはまだ検出できていない。土坑の内、SK439では被熱した（焼かれた）人骨が密集して検出された。下顎の同一部位があることから、2体以上の集積と思われる。また骨の状態から火葬された可能性があり、全国的にも古い火葬事例と考えられる。溝状遺構は集落部南東の砂礫部(低地)へと下る斜面部で検出した。方向性や形状から雨水の流下による自然形成と思われるが、その内の一つが道として利用された可能性がある。溝の長軸に沿って礫が並べられ、平らな面を持つ礫は面を上に向けていることで階段状を呈する。砂礫部の土坑2基は、いずれもこの階段状遺構の先端付近に位置する。居住域に隣接する谷・沢状の自然流路SR103で、長さ約50mに渡る廃棄場を検出した。居住域との比高は北側で浅く、南へ行くに従って深くなる。多量の遺物が含まれ、特に集落部BK2層に対応する層が厚い。南側の砂礫部に含まれる遺物の一部は、この廃棄場から流出したものと考えられる。特に集落廃絶後の自然流路SR500は、遺物を多く包含するSR103の黒色層を切るまたは抉るように流れた痕跡が認められる。

■ **遺　物**　遺物は土器・石器・土製品・石製品が収納箱（内寸約54×34×10cm）で約1,500箱出土した。土器の型式は、新潟県の縄文時代後期初頭から前葉の遺跡に広く分布する、三十稲場式と南三十稲場式が主体で、東北系・関東系・信州系（ひんご式）の特徴がある土器が含まれる。今後集落部の層位的な調査が進めば、詳細な年代差や地域的な傾向が把握できる可能性がある。

■ **まとめ**　上野遺跡は縄文時代後期前葉が主体の大集落である。今年度は集落部と砂礫部の境界付近を調査できたことから、斜面部の土地利用や地形を埋没させた砂礫との関係性を把握することができた。今年度も例年同様に、地域の地形形成史及び災害史を知る上でも多くの情報を得ることができた。（石川智紀）

● SR103 廃棄場の出土状況（南西から）

● 斜面部の階段状遺構の検出状況（南から）

● SK439 焼人骨の検出状況（西から）

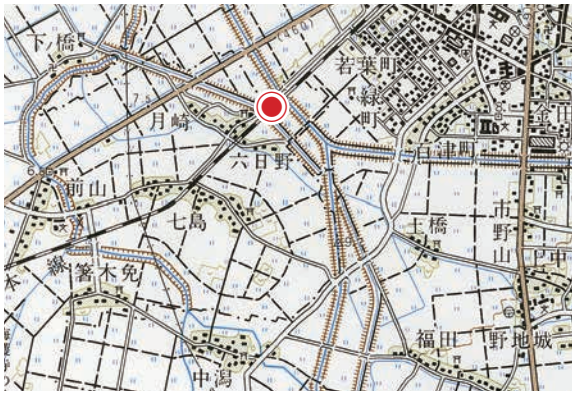
● SR103 出土　深鉢形土器

境塚遺跡（Ⅴ）
山口野中遺跡（Ⅳ）

（さかいづか）（やまぐちのなか）

事業名：国道 49 号阿賀野バイパス
所在地：阿賀野市月崎・山口地内
面　積：境塚遺跡　60㎡
　　山口野中遺跡　310㎡

■ **遺跡の立地と調査の概要**　両遺跡は阿賀野川右岸の沖積地に位置し、JR 羽越本線を間に挟むが本来は一連の遺跡と考えられる。境塚遺跡は江戸時代まであった旧百津潟（阿賀野川の旧河道）の自然堤防上に立地し、山口野中遺跡は自然堤防と旧河道間の低地に立地する。両遺跡とも複数次の本発掘調査が実施され、境塚遺跡では上層（中世・古代）、中層（古墳時代）、下層（縄文時代晩期後葉）の、山口野中遺跡では上層（近世・中世）、中層（中世・古代）、下層（縄文時代晩期）の遺構・遺物が確認されている。特に中世（13 世紀後半から 15 世紀前半）は両遺跡の主体となる時期で、道の構築を契機として町場等が形成されていったと考えられている。今年度の調査区はいずれも小規模で、過年度の調査成果を補足する。



● 位　置　図（1：50,000）
（国土地理院 5 万分の 1 地形図 「新津」平成 9 年発行）

■ **層　序**　境塚遺跡の基本層序は、過年度調査（第 1～4 次調査）でⅠ～Ⅶ層に分層されている。遺構は上層がⅣ層、中層がⅥ層、下層がⅦ層の上面でそれぞれ検出できる。今年度調査区に隣接する H 区（第 2 次調査）では、上層と下層の遺構・遺物が見つかっている。山口野中遺跡の基本層序は、過年度調査（第 1～3 次調査）でⅠ～Ⅷ層に分層され、Ⅳ～Ⅶ層は第 2 次調査でさらに細分されている。遺構は上層がⅢ層、中層がⅥa 層、下層がⅦa 層の上面でそれぞれ検出できる。今年度調査区は 2 区（第 1・2 次調査）の北東側に隣接し、上・中・下層の遺構・遺物が見つかっている。

■ **遺構・遺物**　境塚遺跡では上層で溝 4 条、性格不明遺構 1 基、ピット 5 基を検出した。溝は H 区 SD2334・5216 の南側延長にあたる。溝から中世の土師質土器が出土したが、まとまりは持たず、流れ込んだものと考えられる。性格不明遺構は溝よりも古い遺構で、埋土の色調も異なる。須恵器も出土したが、細片化した土師質土器が含まれることから同様に中世の遺構と思われる。山口野中遺跡では上層で溝 2 条、中層で溝 1 条を検出した。上層の溝の一つは平坦な中段を持つ形状で、2 区 SD99 の北東延長にあたる。近世磁器が少量出土したことから、近世以降まで機能していたことが窺える。　（石川智紀）

● 境塚遺跡　上層の溝／道の側溝（南から）

● 山口野中遺跡　上層の溝（南西から）

丘江遺跡（Ⅸ）
山崎遺跡（Ⅳ）

事業名：国道８号柏崎バイパス
所在地：丘江遺跡　柏崎市田塚３丁目ほか
　　山崎遺跡　柏崎市田塚２丁目山崎ほか
面　積：丘江遺跡 5,772㎡　山崎遺跡 299㎡

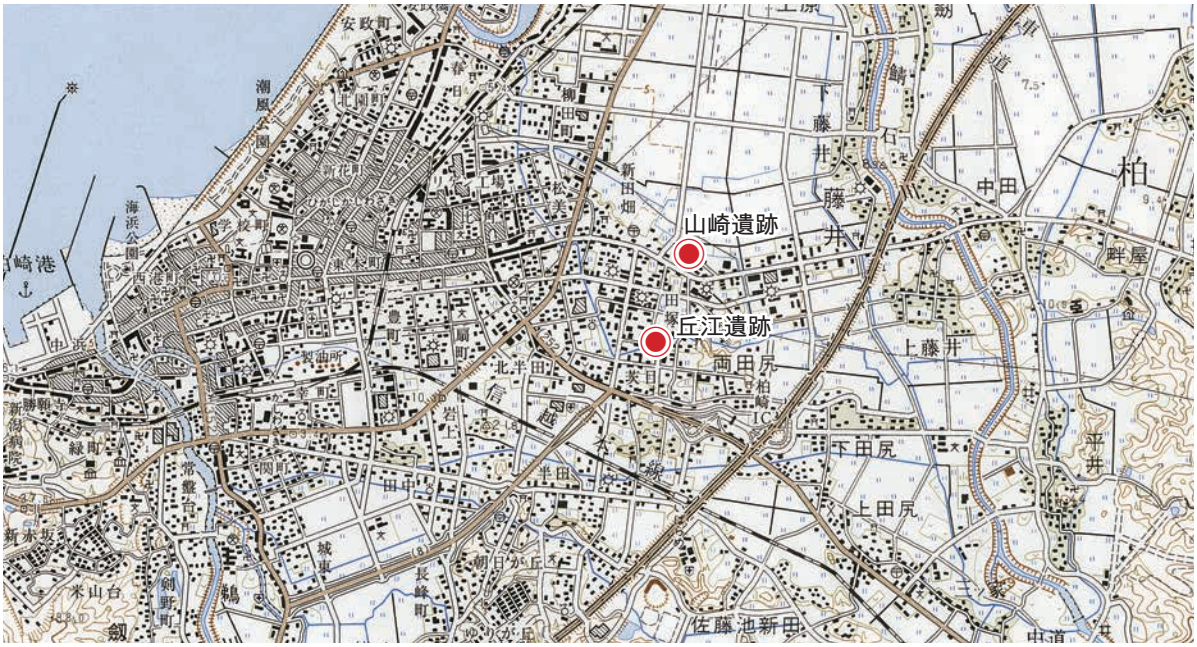
■ **遺跡の立地と調査の概要**　柏崎平野の中央、鯖石川と鵜川によって形成された沖積微高地（丘江遺跡：標高 6m、山崎遺跡：標高 5.1m）に立地する。丘江遺跡は集落（市道柏崎 10-38 号線とその周辺道路ほか）と水田（令和元年度調査残り部分）を対象に延べ 5,772m²、山崎遺跡は平成 22 年度、26 年度調査地点の間にある市道（柏崎 10-27 号線）部分 299m² をそれぞれ調査した。

丘 江 遺 跡

■ **層　序**　これまでの調査成果に準ずる。集落部はⅠ層：灰色粘土質シルト（表土）、Ⅱ層：灰色シルト（近世以降の水田耕作土）、Ⅲ層：オリーブ黒色粘質土（弥生時代～近世の遺物を含む）、Ⅳ層：灰白色粘質土（弥生時代～近世の遺構検出面）。水田部はⅠ層：灰色粘質土（近現代の水田耕作土）、Ⅱ層：灰色～灰オリーブ色シルト（中世上層水田耕作土、a～c 層に細分）、Ⅲ層：オリーブ灰色～黒色シルト（a～d 層に細分、Ⅲa 層は中世中層水田耕作土、Ⅲb・Ⅲc 層は中世下層水田耕作土、Ⅲd 層はⅣ層漸移層）、Ⅳ層：灰白色シルト（下層水田基盤層、弥生時代遺構検出面）。

■ **遺　構**　集落部分ではピット 1160 基、井戸 60 基、土坑 62 基、溝 64 条、性格不明遺構 21 基を検出した。所属時期は中世～近世初頭が主体で、ほかに弥生時代後期と推測する性格不明遺構が 2 基ある。集落部分の中央を横断する埋没河川沿いと北端部分では、水田の可能性が考えられる浅い大型土坑や畦畔・溝を検出した。水田部分では畔や溝といった水田付帯施設を検出した。これに加え、Ⅳ層上面で弥生時代後期のピットや土坑を検出した。

■ **遺　物**　弥生時代後期～近世初頭の土器・陶磁器、木製品、石製品のほか銭貨、鉄滓が出土した。遺物の主体は集落部分が中世～近世初頭の土器・陶磁器、水田部分は弥生時代後期の土器である。一括遺物



● 位　置　図（1：50,000）　（国土地理院５万分の１地形図 「柏崎」平成 19 年発行）

● 集落部分遺構完掘状況（南東から）

● 井戸一括出土　土師質土器　皿

として、集落の井戸から 15 世紀後半以降の土師質土器皿 T 種 10 枚（うち 9 枚は完形品）が出土した。

■ **まとめ**　集落・水田部ともに隣接する調査済地区から連続する遺構を多数検出し、遺跡の景観がさらに明らかとなった。集落部分に関しては、溝・井戸・性格不明の大型土坑から肥前系陶磁器が一定量出土しており、この時期を境に付近一帯が集落から水田域に変化する可能性が窺える。

山 崎 遺 跡

■ **層　序**　これまでの調査成果に準ずる。Ⅰ層：灰色粘質土（現代の水田耕作土）、Ⅱ層：灰色粘質土（近代以前の水田耕作土。a・b2 層に分層）、Ⅲ層：暗灰色粘質土（中世～古代の遺物包含層）、Ⅳ層：灰白色粘質土（遺構検出面）。

■ **遺　構**　古代～中世のピット 182 基、土坑 11 基、溝 12 条、井戸 5 基のほか、弥生時代後期の性格不明遺構を 2 基検出した。中世と推測する掘立柱建物は 3 棟検出したが、このうち、2 棟（SB1・SB2）が重複している。

■ **遺　物**　弥生時代後期～中世の土器・陶磁器、木製品、石製品のほか鉄滓が出土した。井戸 SE105 からは、廃絶に際して埋められた搗き臼（径 20cm ×高さ 15cm）が出土した。

■ **まとめ**　遺構出土の遺物が少なく、時期の特定は難しいが、SB1・SB2 と平成 22・26 年度調査地点を結ぶ溝（SD63・66）は中世の建物とそれに伴う区画溝と推測され、居住域がさらに北側に広がることが明らかとなった。

（藤村クレスト（株）　継　実）

● 掘立柱建物 SB1・SB2 全景（西から）

● SE105 出土　搗き臼

金屋遺跡（Ⅳ）

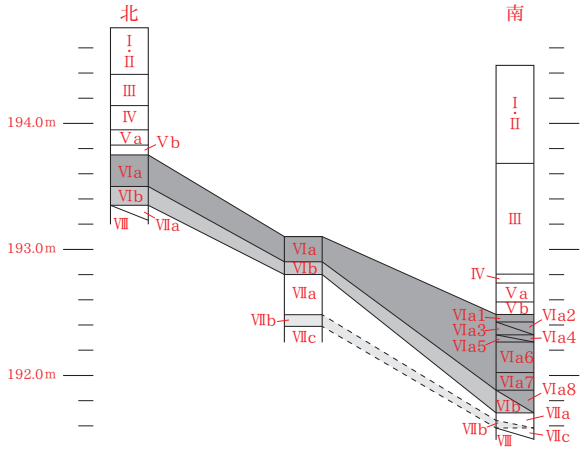
事業名：国道 253 号八箇峠道路
所在地：南魚沼市余川地内
面　積：1,053㎡（次年度継続）

■ **遺跡の立地と調査の概要**　遺跡は南魚沼市余川地内に所在し、魚野川左岸の庄之又川の扇状地に立地する。標高は現況で約 194m を測る。古代の遺物包含層を 2 面確認し（上・下層）、当初はこれを 1 面で調査する予定であったが、上層で検出した遺構が多く 2 面調査に変更した。このため、国土交通省・県教委・事業団の 3 者で協議して、令和 2 年度は上層調査と下層包含層の一部を掘削した段階で終了し、残る下層調査は令和 3 年度に行うこととした。

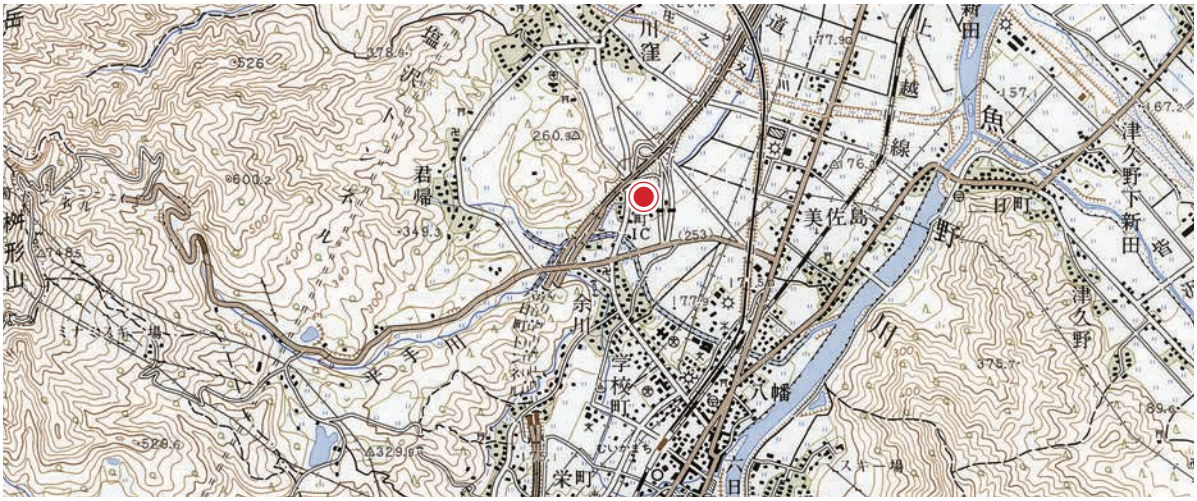
■ **層　序**　基本層序はⅠ～Ⅷ層に分層した。Ⅰ・Ⅱ層は現代の水田耕作に伴うもので、Ⅲ～Ⅴ層は平安時代以降の土石流堆積層である。Ⅵ層は古代の遺物包含層で、土質や色調で大きくⅥa 層（上層）とⅥb 層（下層）に分層した。Ⅵa 層は、南西側の低地部では間層を挟み複数に細分（Ⅵa1～8 層）できるが、北側の高地部では分層が難しい。Ⅶ・Ⅷ層は土石流堆積層で当初地山と捉えていたが、南西側の低地部において包含層とみられる層（Ⅶb）を確認した。調査区内の西・南側は旧河道に向かって傾斜している。旧河道は最終埋没がⅢ層相当であるが、地形の状況からみて古代においても河道が存在していた可能性が高い。

■ **遺　構**　上層の遺構は標高の高い北側に集中

● 調査区全景（北西から）



● 基本層序柱状図（水平 S=1/1,000、垂直 S=1/60）



● 位　置　図（1：50,000）　（国土地理院 5 万分の 1 地形図 「十日町」平成 10 年発行）

し、大半はピットである。現段階で 19 棟の掘立柱建物を認定した。1 間× 2 間の建物が主体で、床面積は 4.12 ～ 23.27m² で 10m² 前後の小型なものが多い。主軸方位は大きく 4 つにまとまり、各方位で重複する建物があることから頻繁に建て替えを行ったものと推測できる。このほか、遺構集中域から外れた低地部では土器集中遺構（SX64・159）を検出した。いずれも礫層上に土器を廃棄したもので、土師器無台椀が主体である。下層の遺構は検出にとどまるが、北側に集中する状況は上層と共通している。ただし下層では竪穴建物と考えられる遺構や溝などを検出し、上層とは集落の構造が異なっていた可能性が高い。

■ **遺　物**　遺物は土器、土製品、石製品、鉄製品が収納箱（内寸約 54 × 34 × 10cm）で 55 箱出土した。大半が包含層中のもので、土器集中遺構を除けば遺構出土のものは少ない。土器は須恵器、土師器、黒色土器のほか、緑釉・灰釉陶器、赤彩土器などがある。墨書や刻書土器も確認でき、文字が判読できるものでは「女」と記されたものが多く、人名もしくは地名を示すものである可能性が高い。また、削り出し高台の有台杯や外面ケズリ調整の台付甕など関東地方（群馬県）との関わりを示す土器が出土した。土製品では鞴（ふいご）の羽口や土錘が、石製品では腰帯具（丸鞆（まるとも））や砥石などがある。鉄製品は馬具・紡錘車・鏃（やじり）・刀子（とうす）のほか腰帯具の一部と考えられるものなどがある。鉄製馬具については、古代に限れば新潟県内で初例となる。

■ **まとめ**　令和 2 年度調査では 8 世紀後半から 10 世紀前半の遺物が出土し、古代に限れば金屋遺跡の中でもやや古相を示すことがわかった。また過去の調査からは、遺跡範囲の東側で南北に流れる旧河道が存在し、そこから東側は生産域あるいは遺構が希薄なエリアであることみられていた。しかし今回の調査では、旧河道の東側にも集落が展開していたことが判明し、旧河道に近い低地部では土器の一括廃棄の様子がうかがえた。このほか緑釉・灰釉陶器、墨書・刻書土器、硯（転用硯含む）、腰帯具といった遺物からは、一般的な集落というよりは拠点的な集落、有力者の存在の可能性を示す一方、上層で検出した遺構は小型の掘立柱建物が主体である。今後は残る下層の調査成果を踏まえて、遺跡の構造や性格の検討を行う必要がある。

（（株）大石組　南波　守）

● **土器集中遺構 SX64**（VIa8 層・南東から）

● **円面硯出土状況**（VIb 層・北から）

● **丸鞆出土状況**（VIa 層・北から）

● **鉄　製　品**（VIa 層）

舘（たて）　遺　跡（Ⅱ）
古屋敷割（ふるやしきわり）遺跡（Ⅱ）

事業名：国道 253 号上越三和道路
所在地：舘遺跡　　上越市駒林
　　古屋敷割遺跡　上越市三和区上広田
面　積：舘遺跡 5,256㎡　古屋敷割遺跡 488㎡

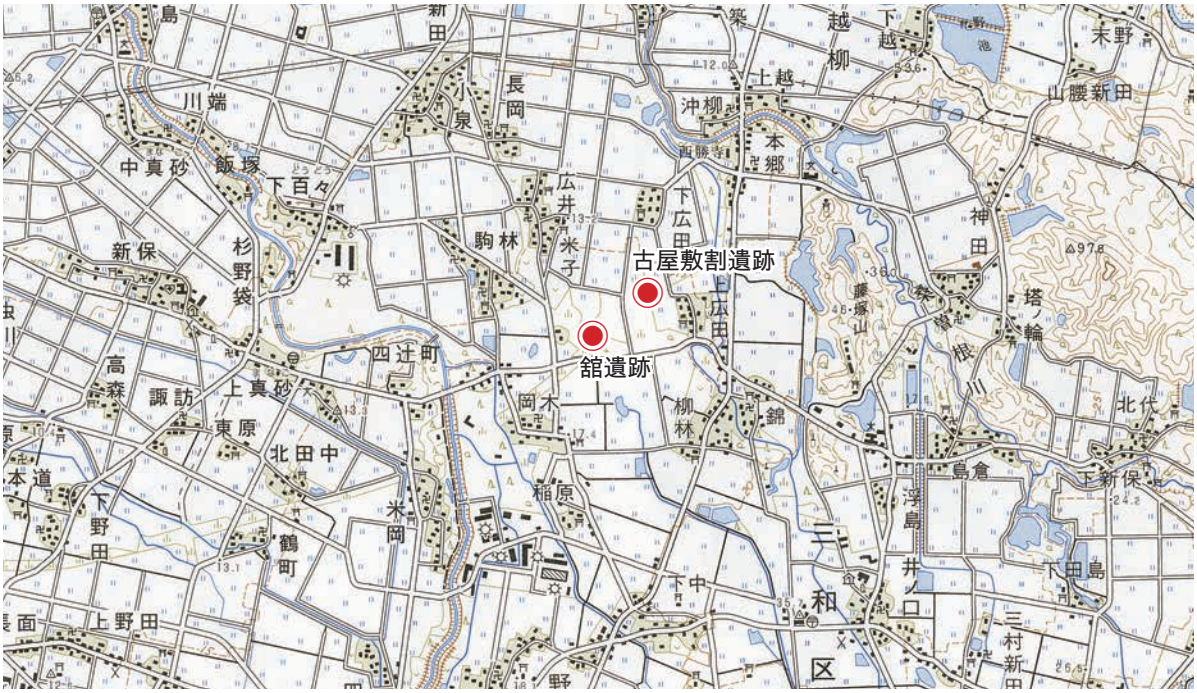
舘　遺　跡

■ **遺跡の立地と調査の概要**　遺跡は高田平野の東部、駒林集落の南東側に位置し、飯田川右岸の標高 15.8m の微高地上に立地する。時期は、上層面が古墳時代（中・後期）・古代～中世、下層面が古墳時代（前期）で、主体は 12 世紀代の中世である。調査面積は延べ 5,260m²（上層 2.860m²、下層 2,400m²）である。

● 調 査 区 全 景（上空西から）

■ **層　序**　基本層序は、これまでの調査成果に準拠し、Ⅰ～Ⅶ層に分層した。上層の遺構検出は現表土面から 20cm 下のⅢ層上面で、下層の遺構検出は現表土面から 1m 下のⅦ層上面で行った。

■ **遺　構**　上層面では、古墳時代の自然流路 2 筋、古代から中世の掘立柱建物 2 棟・井戸 6 基・土坑 31 基・溝 3 条・畝状小溝群 2 か所・建物の柱穴 500 基以上を検出した。古墳時代の自然流路は調査区西側にあり、土器が少量出土した。掘立柱建物 2 棟は、桁行 4 間・梁行 2 間と桁行 3 間・梁行 2 間で同軸方向に建てられ、柱穴は柱抜取穴が認められた。井戸は素掘りで、埋土から完形の土師質土器皿と熱を



● 位　置　図（1：50,000）　（国土地理院 5 万分の 1 地形図 「高田東部」平成 19 年発行）

● 桁行４間・梁行２間の掘立柱建物（南西から）

● 「田人」と刻書した土師器椀（9 世紀後半）

受けた礫が出土し、廃絶時の祭祀行為が窺えた。下層面の遺構は、土坑１基を検出した。

■ **遺　物**　出土量は多くないが、自然流路・遺構から古墳時代の土師器、古代の土師器・須恵器、中世の土師質土器・羽口・鉄滓・木製品などが出土した。その中で器面に「田人（とうど）」と刻書した内黒の土師器椀が柱穴の埋土から出土した。

■ **まとめ**　遺跡は古代から中世が主体で、建物・井戸・畝状小溝で構成する遺構から農業を生業とした集落と考えています。土器に刻書された「田人」は、古代から田仕事に従事する人を指す用語であり、遺跡の性格を考察する上で貴重な資料である。

古屋敷割遺跡

■ **遺跡の立地と調査の概要**　遺跡は高田平野の東部､飯田川右岸の標高 14.8m の微高地上に位置する。令和元年度の調査区を２分していた農道下を調査した。時期は古墳時代と古代から中世である。調査面積は、488m² である。

■ **層　序**　基本層序は、これまでの調査成果に準拠し、Ⅰ～Ⅳ層に分層した。遺構検出は現表土面から 40cm 下のⅢa 層上面で行った。

■ **遺　構**　古墳時代の自然流路、古代から中世の井戸１基・土坑３基・溝８条を検出した。

■ **遺　物**　井戸・土坑などの遺構から古代の土師器・須恵器、中世の土師質土器が出土した。

■ **まとめ**　遺跡は北東側に古代から中世の集落が営まれており、調査地点はその集落の外縁にあたる。

（飯坂盛泰）

● 調 査 区 全 景（上空から　手前南西側）

● 井　戸　断　面（南から）

下割遺跡（Ⅷ）

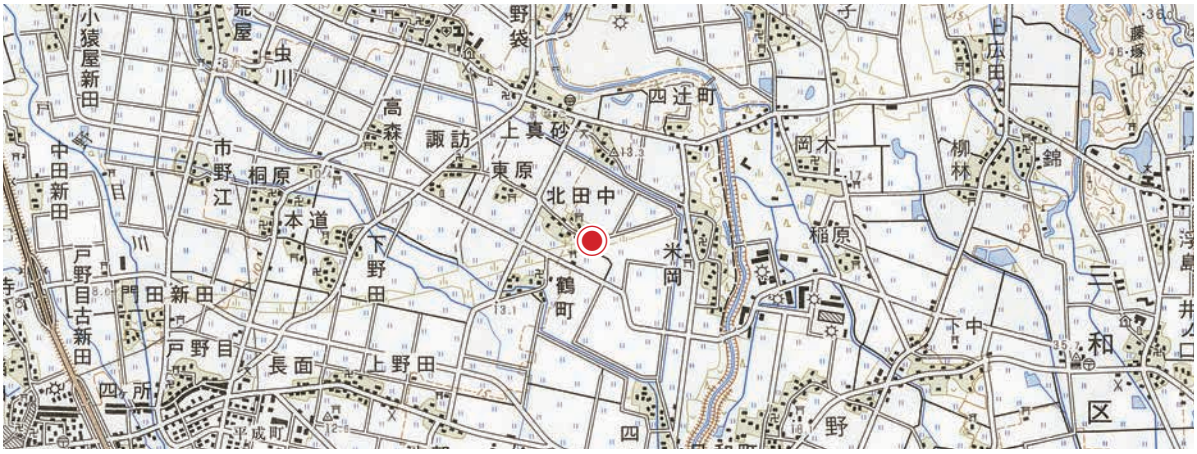
事業名：国道 253 号上越三和道路
所在地：上越市米岡・北田中・鶴町地内
面　積：7,274㎡

■ **遺跡の立地と調査の概要**　遺跡は高田平野の中央、飯田川左岸に位置し、標高約 14m の沖積地に立地する。調査区は将来市道になる部分（市道と呼称）の延長 220m と橋脚 6 か所（西から P1～P6 と呼称）である。調査面は市道部分については 1 層：中世～近世、2 層：奈良・平安時代。P1～P6 については、1・2 層と 3 層：古墳時代。4 層：縄文時代を予定していた。最終的には P6 で縄文時代後期前葉の良好な遺物包含層を確認したが、冬期も迫っており、本格的な縄文層の調査は次年度以降とした。調査面積は、1 層：3,247m²、2 層：2,507.8m²、3 層：1,519.2m² の延べ 7,274m² である。

● 調査区全景（手前市道、奥橋脚　東から）

■ **層　序**　基本層序はⅠ～Ⅹ層に分層した。地区によって堆積状況が異なるが、時代・時期によって層序を統一した。Ⅰ層が表土・現代の水田耕作土、Ⅱ層が水田床土、Ⅲ層が近代～ほ場整備前の水田耕作土、Ⅳ層が中世～近世の遺物包含層および水田耕作土で、Ⅴ層上面で遺構検出を行った。Ⅴ層が奈良・平安時代の遺物包含層で、Ⅵ層上面で遺構検出を行った。Ⅵ層が古墳時代後期～飛鳥時代前期の遺物包含層及び遺構確認面である。Ⅶ層が古墳時代前期の遺物包含層で、Ⅷ層上面で遺構検出を行った。Ⅸ層の下部からもわずかに縄文時代の土器が出土するが、Ⅹ層を縄文時代後期前半の遺物包含層とした。

■ **遺　構**　1 層で市道から P2 まで中世～近世の水田跡を検出した。平成 21 年の調査成果を勘案すると東西 420m 南北 55m の範囲となる。P2 で水田の西端になる幅 2.8m の大畦畔（農道）を検出した。この農道は現在の農道下に重なっており近世以降の農道の可能性がある。農道の下には中世からの水田が残っていた。P2～P1 の屋敷地には掘立柱建物 9 棟、井戸 4 基、土坑 7 基、溝 8 条、畠となる畝状小溝を検出した。P4 で墓の可能性がある地下式坑 1 基を検出した。奈良・平安時代の遺構は市道で自然流路



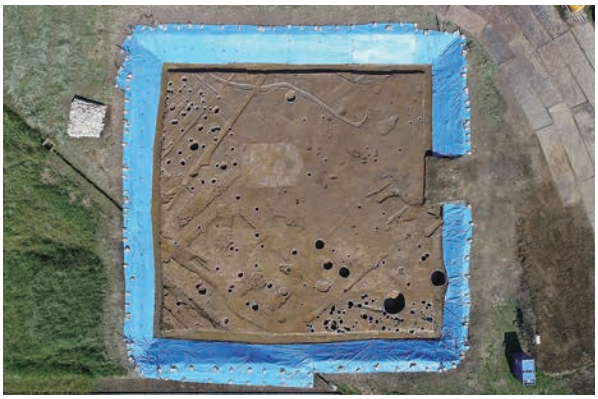
● 位　置　図（1：50,000）　（国土地理院 5 万分の 1 地形図 「高田東部」平成 19 年発行）

SD222 を検出し、大量の遺物が出土した。SD222 の西側～ P1 まで東西 520m の範囲で畠となる畝状小溝を多数検出した。やや幅広の溝からは、焼けた木材と大量の炭化米が出土した。畠が広がる P4 で井戸を 1 基検出した。P2 で柱穴に礎板を入れた掘立柱建物 1 棟を検出した。この周辺が古代の集落とみられる。P1 で東から西へ流れる自然流路を 1 条検出し、2 条の杭列や墨書土器を含む土器・木製品が大量に出土した。古墳前期の遺構は P6 ～ P4 の範囲で溝、土坑、風倒木痕などわずかであった。P3 で古墳時代後期の土器 3 個体がつぶれた状態で出土した。P2 で飛鳥時代前期の土坑 1 基、P1 でつぶれた状態の複数の土器が出土した。

■ **遺　物**　中世～近世の遺物は珠洲焼・青磁・土師質土器・銭貨・小柄・鉄滓・舟形木製品・杓子・曲物など少数である。奈良・平安時代の遺物が最も多く、土師器椀・皿・甕・小甕、黒色土器椀、須恵器杯・杯蓋・甕、灰釉陶器椀・耳皿、鉄製紡錘車、刷毛などがある。このうち灰釉陶器耳皿は県内での出土例が極めて少ない貴重品である。遺物の時期は 8 世紀～ 9 世紀代である。古墳時代前期の土器は甕・高杯などがある。古墳時代後期（6 世紀）の土器は胎土・器形は在地のものであるが、3 個体の内、小型の鉢にのみ口縁～頸部に弧状に沈線が施されている。刺突は有無も含め判別が難しいが、北方系の土器の可能性がある。この鉢が北方系であった場合、南限の出土地になる。また、大型の鉢には 2cm 大の礫が 20 個ほど入っていたが、用途は不明である。他に壺が出土している。P1 から出土した飛鳥時代（7 世紀前半）の土器は長甕（ながかめ）、甑（こしき）、黒色土器高杯（たかつき）・杯で、P2 の土坑からも黒色土器杯が 1 点出土している。

■ **まとめ**　調査は部分的であり遺跡全体の様子を把握することは難しい。中世の屋敷地は 420m の水田を挟んで東西に所在する。奈良・平安時代の集落は SD222 の東と P2 付近か。間は畠の耕作を行っている。古墳時代前期は集落縁辺で範囲は P6 ～ P4 まで。P3 に古墳時代後期の土器が点在、P2・P1 に飛鳥時代の土器が点在する。今後は高田平野初の縄文時代集落の発見となるか期待されるところである。

（佐藤友子）



● P1　中世～近世屋敷地　完掘（右上が北）

● P2　中世～近世屋敷地と農地　完掘（右上が北）

● P3 出土　古墳時代後期の土器（左端が北方系）

● P1 出土　飛鳥時代前期の土器

4　整理・報告作業

令和２年度の整理作業（基礎整理含む）は、当該年度に発掘調査を行った 10 遺跡を含めて 12 遺跡で実施した。このうち、事業団職員が埋文センターで作業したのは、村上市上野遺跡、南魚沼市六日町藤塚遺跡、南魚沼市坂之上遺跡である。境塚遺跡Ⅳは令和元年度に編集作業までほぼ終了し、最終確認を経て印刷・刊行した。整理作業は、図版作成や編集作業のデジタル化（編集業者委託）と PDF データからの印刷で作業の効率化を図っている。

上野遺跡（村上市）：上野遺跡は村上市に所在する縄文時代後期前葉が主体の集落遺跡である。国道７号朝日温海道路建設に伴い、平成 29 年度から調査を開始した。平成 30 年度（第２次調査）以降の整理作業は、昨年度４月から開始し、今年度も引き続き実施した。遺物出土量（収納箱：内寸約 54 × 34 × 10cm）は、平成 30 年度（第２次調査）で約 900 箱、令和元年度（第３次調査）で約 300 箱が出土している。昨年度は第２次調査出土の土器類を中心に作業を進め、グリット・層位別に分類し、接合・復元作業を行った。今年度８月上旬に復元作業を終了し、７月下旬から実測作業も開始した。完形・器形復元した土器を約 270 点実測し、断面実測・拓本を約 65 点実施した。その他に、石器の分類・抽出と遺構個別図の編集・校正作業も行っている。遺物量が多く、現地調査も途中であることから、報告書刊行年度は未定である。

六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡（南魚沼市）：国道 17 号六日町バイパス建設に伴い、六日町藤塚遺跡は平成 29 ～令和元年度（第１～３次調査）、坂之上遺跡は平成 30・令和元年度（第１・２次調査）に発掘調査を実施した。両遺跡は近隣に所在し、時期的にも互いに関係があることから合わせて整理作業を実施している。主体となる時期は古代と古墳時代（中期～後期）である。特に六日町藤塚遺跡の下層（古墳時代中期末～後期初頭）で検出された土器集積遺構の土器の復元率は高く、接合・復元・実測が今年度の作業の中心となった。また各層で遺構も多く検出されていることから、遺構図版の作成も並行して実施した。来年度も整理作業は継続し、令和４年３月に報告書を刊行する予定である。

● 上野遺跡　土器実測作業

● 六日町藤塚遺跡　土器復元作業

5　令和２年度刊行報告書

シリーズ No. 発行日	報告書名 所在市町村	体裁 頁数	事業名	調査 年度	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	担当者
第 289 集 R3.03.19	境塚遺跡Ⅳ 第４次調査 阿賀野市	A4 判 79 頁	国交省 国道 49 号 阿賀野 BP	R 元	遺物包含地	古墳前期	土坑２・溝１・ピット２	土師器	石川智紀
					遺物包含地	古代		土師器・須恵器	
					集落	中世	掘立柱建物７・井戸１・土坑 18・溝 18・ピット 193	土師質土器・珠洲焼・瓷器系陶器・瀬戸美濃焼・青磁 砥石・石鉢・木製品	

6 保　存　処　理

令和２年度は、担当職員１名と嘱託員５名で木製品・金属製品の保存処理を行った。

■ 木製品の洗浄・台帳作成・写真撮影

木製品は、木製品保管棟の水槽で水漬け保管しており、保存処理は報告書掲載遺物を優先して刊行順に行っている。その手順は遺物表面の泥汚れを水洗いし、長い間地中に埋もれ木製品に染み込んだ鉄分などの汚れを落とすために薬液に漬けて脱鉄処理を行う。その後、処理前の状態を写真に記録してから、トレハロース含浸処理を始める。

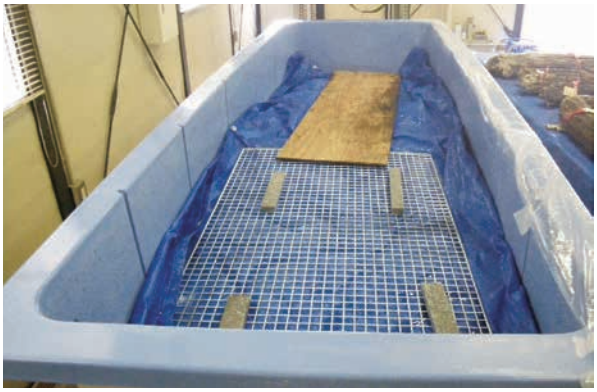
■ 木製品の保存処理

木製品の保存処理では、乾燥による木材の収縮・変形を防止し、木材の強化を図るため、木材中の水分を空気中でも安定な糖アルコール（トレハロース）に置換し、結晶化させる「トレハロース含浸法」を採用している。令和２年度は大型品を中心にトレハロース含浸を実施した。長さ約 50cm、厚さ 5cm 以上の木製品を大型に分類し、含浸期間は概ね８か月を目途としている。これらは、温度調整が可能な大型含浸槽（槽内長さ 3.0m）２台と小型含浸槽（槽内長さ 1.7m）１台で実施した。加えて、令和２年度は鎌倉・室町時代の大型曲物を、大型水槽で常温含浸を中心とした保存処理を実施した。

大型木製品　平成 30 年度から大型含浸槽３台を各年１サイクル稼働した。令和２年度は 14 遺跡 243 点について、トレハロース含浸から結晶化（取出し乾燥）までの作業を実施した（第１表）。前年の令和元年度に保存処理を実施した大型木製品 18 遺跡、222 点について、スチームクリーナーで木製品の表面に飴状に付いたトレハロースを溶かして拭い、しばらく乾燥させ保存処理を完了した（第２表）。このあと遺物ラベルと保存処理台帳を確認して収蔵庫に収納する。

● 大型含浸装置で含浸状況

● 大型含浸装置から取り上げ後の乾燥



● 大型水槽よる常温含浸状況

● スチーム後の梱包状況

■ **金属製品の洗浄・台帳作成**（第３表）

金属製品は、報告書刊行順に遺物表面の泥汚れをエタノールで洗浄し、「保存処理台帳」に１遺跡の53点を登録した。その後、保存処理までRPシステム（脱酸素剤「RP剤」と酸素や水を通さないハイバリアフィルム「エスカル」を用いた保管方法）により保管した。

■ **金属製品の保存処理**（第４表）

金属製品は、先ずＸ線透過撮影により遺物の構造や劣化状態を確認した後、遺物表面を覆っている錆をグラインダーやメスなどで除去する。その後、腐食を促進する塩化物・硫酸を脱塩処理により取り除き、遺物の強化と腐食促進因子による再汚染防止を目的としたアクリル樹脂の含浸を行った。

令和２年度は13遺跡の鉄製品104点と15遺跡214点の青銅製品の保存処理が終了した。

● 保存処理台帳作成・登録後梱包状況

● サビ落とし状況

第１表　木製品の保存処理

報告書 No.	遺跡名	処理点数
60	一之口 東地区	4
133	青田	4
157	住吉	1
166	土居下	17
168	中曽根	5
172	鴨深甲	95
179	桜林Ⅱ	8
189	寺前	9
196	野地	2
203	狐塚	1
206	西部Ⅱ	50
207	竹花	32
207	姫御前Ⅱ	14
277	蕪木	1
合　計		243

第２表　木製品の表面処理

報告書 No.	遺跡名	処理点数
60	一之口 東地区	1
138	五反田	2
157	住吉	6
181	田屋道Ⅰ	13
193	八太郎	28
193	田屋道Ⅱ・Ⅲ	8
193	宮の越Ⅱ	2
194	西部Ⅳ	8
196	野地	23
201	延命寺	34
202	六反田南	4
202	前波南	24
203	狐塚	4
232	境塚	1
277	蕪木	6
283	丘江Ⅳ	1
286	山口Ⅱ	4
287	余川中道Ⅲ	53
合　計		222

第３表　金属製品の保存処理台帳

報告書 No.	遺跡名	処理点数
287	余川中道Ⅲ	53

第４表　金属製品の保存処理

【鉄製品】

報告書 No.	遺跡名	処理点数
182	岩ノ原	1
201	延命寺	5
203	狐塚	1
206	西部Ⅱ	53
207	竹花Ⅰ	5
207	姫御前Ⅱ	7
208	姥ケ入南	5
208	姥ケ入製鉄	2
210	荒町南新田	3
212	北前田Ⅱ	1
213	堂の前	1
214	香積寺沢	3
215	山口	17
合　計		104

【青銅製品】

報告書 No.	遺跡名	処理点数
201	延命寺	7
202	前波南	5
202	六反田南	9
205	田伏山崎	8
206	西部Ⅱ	1
207	竹花Ⅰ	53
207	姫御前Ⅱ	57
208	姥ケ入製鉄	3
209	前波南Ⅱ	31
210	荒町南新田	6
211	六反田南Ⅱ	20
212	岩ノ原Ⅱ	2
214	香積寺沢	9
214	千古作	2
215	山口	1
合　計		214

Ⅲ　普及啓発事業

1　現地説明会

令和２年度は、上野遺跡・舘遺跡で現地説明会を開催し、金屋遺跡・下割遺跡で出土品・パネル展示をおこなった。参加者は合計で 443 名であった。

令和２年度出土品等展示会・現地説明会

遺跡名	所在地	主な時代	事業名	開催日	参加人数
上野遺跡Ⅳ	村上市	縄文	国道７号 朝日・温海道路	11/3（火・祝）	114 名
金屋遺跡Ⅳ	南魚沼市	古代	国道 253 号 八箇峠道路	11/3（火・祝） ～11/7（土）	143 名
舘遺跡Ⅱ	上越市	古代・中世	国道 253 号 上越三和道路	9/12（土）	87 名
下割遺跡Ⅷ	上越市	縄文～近世	国道 253 号 上越三和道路	10/27（火）～ 10/31（土）	99 名
合　　計					443 名

● 現地説明会（上野遺跡）の様子

2　企画展・常設展

■ 春季企画展「縄文の巨木柱とマツリ －糸魚川市寺地遺跡－」

本展では、数多くの新潟県指定有形文化財（考古資料）を含む糸魚川市寺地遺跡の出土品を一堂に集め展示した。

●「縄文の巨木柱とマツリ －糸魚川市寺地遺跡－」展示の様子

寺地遺跡は、富山県と接する新潟県糸魚川市の国史跡である。日本海までは約 500m の田海川左岸の標高約 8m に位置し、縄文時代中期の竪穴建物や晩期の大規模な配石遺構と巨木柱が検出された。縄文時代晩期の配石遺構は長さ 16m、幅 10m の範囲から見つかった。炉状配石を中心に偏平な礫を敷き詰めた有柱方形配石、廊状配石、積石環状配石が連なっており、それぞれがマツリで違った役割を持っていたと考えられている。巨木柱は、方形配石の中に一辺 1.4m の正方形に配置されたものである。他にも様々な木取りの柱が見つかっている。

巨木柱の周囲からは、様々なマツリの道具が出土している。石冠、石棒、環状石斧、北陸地方に特有の御物石器などである。円盤状石製品は寺地遺跡独自のもので、独創的なマツリが行われていたようである。また、数多く出土している中屋式土器は北陸地方との強い結びつきを示しており、遮光器土偶の存在は東北地方との交流を物語る。このほか、県内２例目となる縄文時代の丸木舟や、特産のヒスイ製玉も見つかっている。

これらの展示品 245 点から、寺地遺跡の魅力に触れていただいた。観覧者数は 4,552 人である。

■ 秋季企画展「越後争乱ノコト ー発掘された白河荘ー」

平安時代の終わりに起こった源平合戦から戦国時代まで武士の争いの舞台となった新潟県の北部。現・阿賀野市を中心とした白河荘は、阿賀野バイパス建設などに伴う大規模な発掘調査が行われ、その具体的な姿が明らかとなってきた。本展では、阿賀野市大坪遺跡や境塚遺跡、堀越館跡、新町遺跡等、10 数遺跡にのぼる鎌倉時代～室町時代の遺跡から見つかった出土品から、大型井戸の部材や一括出土銭、中国・朝鮮半島産の陶磁器、金属製品・木製品などを選りすぐって展示し、中世白河荘の歴史に迫った。

●「越後争乱ノコト ー発掘された白河荘ー」展示の様子

大坪遺跡は、11 世紀中頃から 12 世紀末を主体とする遺跡である。規則的に並ぶ掘立柱建物のうち、面積が 100m² を超える大型建物もある。高級品の陶磁器も多く、城氏との関連が予想される。

赤坂山中世窯跡は、13 世紀後半の瓷器系陶器の窯跡で、その製品は白河荘の人々の生活を支えた。

境塚遺跡は、13 世紀後半から 15 世紀前半の遺跡である。陸上交通と河川交通の結節点の町で、地頭職・大見氏の関与が推測される。大型建物の周りから新材で構築した大規模な方形縦板組井戸が確認でき、身分の高い人が構築した可能性が想定できる。また境塚遺跡では、曲物に入った 52 種類・2,907 枚の一括出土銭が出土した。

堀越館跡は、ゴミ穴から武士の権威を示す 14 世紀後半から 15 世紀前半の優品が多く見つかった。越後争乱（応永の大乱 / 応永 30（1423）年）で堀越要害が 1 日で落ちたという文献記事【「和田房資記録」『越佐資料』第 2 巻】と、出土品の年代が合致する貴重な事例である。

新町遺跡は、15 世紀後半から 16 世紀初頭の遺跡で、幅約 16m と大規模な道が見つかった。境塚遺跡に続く物流の拠点となった町で、その衰退は越後が戦国時代に入る時期と一致する。

これらの展示品 298 点をとおして、県民の皆様に郷土の歴史を身近に感じていただいた。観覧者数は 6,242 人である。

■ 常設展

速報展示コーナーにおいて、村上市上野遺跡（縄文時代後期）、南魚沼市余川中道遺跡（古墳時代中期～室町時代）の展示替えを行った。そのほか、2 階フロアにスペースを設け、時代の異なる 3 点の大甕として、新発田市小船渡遺跡（平安時代）、上越市虫川城跡（鎌倉・室町時代）、妙高市坪ノ内館跡（江戸時代）を展示した。また、今年度は市町村への出土品譲与に伴って展示替えを行い、新発田市青田遺跡の石製容器など、新たに約 30 点を展示した。

● 速報展示コーナー

3　発掘！新潟の遺跡 2020 展・遺跡発掘調査報告会・講演会

■ 発掘！新潟の遺跡 2020 展

公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団が令和 2 年度に発掘調査・整理作業を行った村上市上野遺跡・竹ノ下遺跡、上越市舘遺跡・下割遺跡、南魚沼市金屋（かなや）遺跡・六日町藤塚（むいかまちふじづか）遺跡・坂之上（さかのうえ）遺跡の 7 遺跡の出土品・写真パネルなどの展示を行った。速報性が高い内容で多くの展示品が初公開となった。期間は 12 月 25 日（金）から令和 3 年 3 月 28 日（日）の開催であった。期間中の入館者は 2,201 人であった。

■ 第 24 回遺跡発掘調査報告会

令和 3 年 3 月 7 日（日）に埋蔵文化財センター研修室で開催した（主催：新潟県埋蔵文化財センター）。調査成果報告として、村上市竹ノ下遺跡、上越市舘遺跡、上越市下割遺跡、南魚沼市六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡・金屋遺跡の報告を行った。

シンポジウム「上野遺跡と土石流」では、村上市上野遺跡の調査成果報告の後に、新潟大学災害・復興科学研究所の卜部厚志教授から「上野遺跡の土石流」と題する講演をいただき、新潟県教育庁文化行政課の加藤学氏が「県内の遺跡調査で発見された災害痕跡」と題する講演を行った。その後、パネルディスカッションでは、上野遺跡と土石流について議論した。参加人数は 31 人であった。

■ 新潟県埋蔵文化財センター講演会

企画展の 3 つのテーマに合わせ、当初は全 9 回の講演会を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響で第 2 回までは中止した。その後は定員を 80 名から 30 名へと変更し、講師はフェイスガードをつけるなど、感染対策を行って実施した。

第 5 回では、YouTube のライブ配信を利用して、センター 2 階フロアで同時上映を行った。第 6 回でも同様のことを試みたが、通信状況が悪くうまくいかなかった。12 月には、第 5 回・第 6 回講演会の映像会や、中止した講演会の一部を実施した。全ての講演会の参加人数は合計 292 人であった。

4　校外学習・体験イベント

■ 校外学習・出前授業・職場体験・団体見学

令和 2 年度に校外学習で来館した学校等は 26 校 1,502 人、出前授業は 5 校 247 人、職場体験は 3 校 16 人（複数日来館含む）、合計 33 校 1,765 人であった。新型コロナウイルス感染症の影響により、校外学習・出前授業・職場体験の全てで、前年度より大きく減少した。

● 職場体験での縄文土器の拓本実習

校外学習の内容は、本物を用いた歴史学習、火起こし・勾玉作りなどの体験学習、展示見学・仕事見学、土器接合を行う職場体験である。一度の受け入れ人数の上限を 80 名とし、換気や消毒、座席の間隔を確保など、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら実施した。感染拡大が一時落ち着いた 10 月には多数の校外学習を受け入れ、また県内に切り替えた修学旅行のコースとして利用されるケースもあった。

職場体験は、地元企業の受け入れが難しいとの理由で、近年当センターを利用していなかった中学校が申し込むケースがあった。団体見学は 6 団体 62 人であった。

令和２年度　体験学習等参加校一覧

校　外　学　習

No.	月　日	曜	学　校　名	学　習　の　内　容								人数 引率者含む
				実物学習	石器使用	火起こし	勾玉作り	展示見学	仕事見学	職場体験	その他	
1	６月26日	金	新潟市立小合小学校	○	○		○	○				18
2	７月７日	火	新潟市立小合東小学校	○	○			○	○	○		11
3	７月９日	木	新潟市立巻北小学校	○	○	○		○	○			79
4	７月10日	金	新潟市立和納小学校	○	○		○	○	○			46
5	７月16日	木	五泉市立川東小学校	○	○			○	○	○		23
6	７月20日	月	五泉市立橋田小学校	○	○	○			○			12
7	８月11日	火	小須戸地区公民館								○	20
8	８月27日	木	新潟市立葛塚小学校	○	○	○		○	○			39
9	８月28日	金	新潟市立葛塚小学校	○	○	○		○	○			74
10	９月８日	火	新潟市立曽野木小学校	○	○	○	○	○	○			65
11	９月25日	金	新潟市立鏡淵小学校		○		○	○	○			82
12	９月28日	月	新潟市立木崎小学校	○	○			○	○			67
13	10月１日	木	新潟市立東中野山小学校	○	○	○		○	○			107
14	10月８日	木	新潟市立新津第三小学校				○	○	○			141
15	10月14日	水	五泉市立五泉南小学校				○	○			○	35
16	10月16日	金	新潟県立新潟聾学校				○	○				6
17	10月16日	金	上越市立八千浦小学校			○		○	○	○		48
18	10月20日	火	新潟市立桜が丘小学校	○	○	○		○	○			86
19	10月21日	水	燕市立大関小学校	○	○	○		○	○			22
20	10月22日	木	新潟市立女池小学校		○			○	○			140
21	10月22日	木	新潟市立赤塚小学校	○	○			○	○			49
22	10月23日	金	新潟市立山の下小学校				○	○	○	○		36
23	10月30日	金	新潟市立江南小学校	○	○		○	○	○			62
24	11月13日	金	新潟市立新津第二小学校			○	○	○	○			64
25	11月20日	金	新潟市立山潟小学校	○	○		○	○	○			76
26	12月３日	木	新潟市立新通つばさ小学校		○			○	○			94
合　計				16	19	10	11	24	22	4	2	1,502

出　前　授　業

1	６月23日	火	新潟市立岡方第一小学校	○	○	○						17
2	６月24日	水	新潟市立豊栄南小学校	○	○	○						15
3	６月25日	木	新潟市立荻川小学校	○	○							106
4	７月１日	水	新発田市立加治川小学校	○	○							41
5	10月27日	火	上越市立大潟町小学校	○							○	68
合　計				5	4	2	0	0	0	0	1	247

職　場　体　験

No.	月　日	曜	学　校　名	体　験　の　内　容								人数 引率者含む
				館内見学	註記	接合	拓本	保存処理	展示作業	体験準備	その他	
1	９月29日	火	新潟市立小須戸中学校	○	○	○	○	○	○	○		8
2	９月30日	水	新潟市立小須戸中学校	○	○	○	○	○	○	○		6
3	10月21日	水	さくら国際高校	○	○	○	○					2
合　計				3	3	3	3	2	2	2	0	16

団体・その他（職員が解説等をした団体）

No.	月　日	曜	団　体　名	見　学　の　内　容								人数 引率者含む
				展示見学	実物学習	火起こし	勾玉作り	石器体験	仕事見学	職場体験	その他	
1	６月23日	火	縄文の里　朝日	○								4
2	７月31日	金	糸魚川市文化財審議会	○								13
3	10月１日	木	国際交流サービス	○								26
4	10月30日	金	横山様一行	○								9
5	11月６日	金	新潟市立新関小学校 PTA				○					3
6	３月26日	金	西遊旅行	○								7
合　計				4	0	0	1	0	0		0	62

■ 少年少女考古学教室

少年少女考古学教室（全４回）は、学年や地域が違う仲間たちと交流しながら、土器や石器などの遺物に触れ、様々な体験活動をとおして古代の人々の知恵や生活を学ぶことを目的とする。令和２年度は、全４回とおしでの参加を条件に募集し、遺跡や歴史に興味がある小学４年生～中学２年生の 12 人が参加した。

座学での解説授業やセンター内外の施設の見学のほか、「土器作り」「発掘」「縄文ポシェット作り」「弓矢」「石斧」「火起こし」「土器でクリを煮る」「石でクルミ割り」などの体験を行った。第４回では、それまで学んだ成果をポスターにまとめ、発表会を行い、成果物とともに１階ホールで展示した。

● 少年少女考古学教室での発掘体験（上野遺跡）

■ 埋蔵文化財センター見学会

アンケートでの要望が多かったことから、初の大人向けの見学会を平日に行った。参加者は 20 人であった。

センターの概要を説明した後、2 班に分けて調査員室の見学と保存処理室の見学を交互に行った。調査員室では整理作業を見学した後、実測道具を実際に使って縄文土器の形を取るなどの体験を行った。

後半は、「土器の形」「土器の文様」「土器の作り方・使い方」「石器について」「縄文の道具を体験」の 5 つのコーナーをローテーションで見学・体験した。

● 見学会の「土器の作り方・使い方」コーナー

■ 花と遺跡のふるさとフェスタ・まいぶん祭り

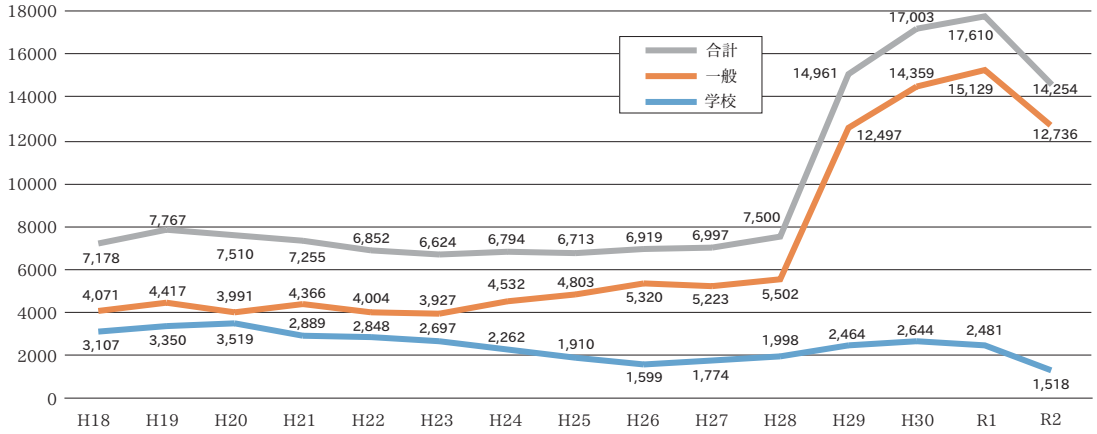
例年「花と遺跡のふるさと公園」内で実施していた 6 月の「花と遺跡のふるさとフェスタ」と 10 月の「まいぶん祭り」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

5 入 館 者 数

埋文センターは平成 8 年 10 月 1 日の開館以来、令和 2 年度末で 24 年 6 か月が経過した。年末年始を除き、どなたでも無料で見学することができる。平成 29 年度から年間イベント案内や企画展ポスター・チラシ、小・中学校への校外学習案内の積極的な配布を行った結果、入館者数が増加に転じた。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための休館（4 月 18 日～ 5 月 10 日）、例年実施のイベント（春・秋のまいぶん祭り　R1：1,495 名）の中止や、校外学習の受け入れ制限（R1 比 969 人減）に、講演会等の中止（6・7 月）と定員減（587 人減）等により、入館者は 14,254 人、校外学習等は 34 校となった。

ただし、校外学習の受け入れや講演会を徐々に再開した令和 2 年 7 月～令和 3 年 3 月の期間（9 か月間）に限れば、入館者が増加に転じた平成 29（2017）年度以降では最多の入館者となった。

■ 入館者の推移



6　出土品の管理

埋文センターで保管する出土品や写真・図面等の貸出し、掲載、使用、閲覧の依頼に対し、許可及びこれに係る事務を行っている。令和２年度は企画展等のための遺物の貸出し 19 件 7,525 点（うち長期貸出し 7,286 点）、書籍等への写真掲載 16 件 63 点、遺物分析２件 43 点や放送などの写真使用３件 11 点、写真の利用は６件 39 点、遺物の閲覧 11 件 473 点、合計 51 件に対応した。詳細は新潟県教育庁文化行政課が発行する『令和２年度　新潟県文化財年報』に掲載される予定である。また、市町村への出土品の譲与を行った。件数は、新潟市１件、長岡市 17 件、三条市３件、柏崎市６件、村上市 26 件、糸魚川市 16 件、胎内市 24 件、阿賀町 41 件である。

7　広　　報

■ 年　　報

１年間の事業概要の総括したもので、９月 18 日令和元年度版（A4 版 34 頁）を刊行した。印刷物を 30 部作製するとともに、当事業団のホームページで公表した。

■ 埋文にいがた

発掘調査速報やイベント情報、遺物や史跡の紹介を中心とする広報紙で、６月・９月・12 月・３月に発行した。印刷部数は 2,000 部である。記事はホームページにも公開した。

令和２年度発行「埋文にいがた」内容一覧

号	発行年月日	調査・整理遺跡の紹介	その他	県内の遺跡・遺物
111	令和２年 ６月 26 日	令和２年度本発掘調査遺跡・整理遺跡の紹介	埋文コラム　「縄文時代の道具　石冠」 春季企画展「縄文の巨木柱とマツリ －糸魚川市 寺地遺跡－」 少年少女考古学教室　参加者を追加募集！ YouTube チャンネル開設！動画配信を開始しました。	相馬御風宅 （糸魚川市）
112	令和２年 ９月 25 日	舘遺跡（上越市） 六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡（南魚沼市）	秋季企画展「越後争乱ノコト －発掘された白河荘－」 埋文コラム　「高坏について －食器の移り変わり－」	新穂城跡 （佐渡市）
113	令和２年 12 月 25 日	上野遺跡（村上市）	埋文コラム「マツリの道具 －形代－」 冬季企画展『発掘！新潟の遺跡 2020』と第 24 回遺跡発掘調査報告会について	旧新潟税関 （新潟市）
114	令和３年 ３月 15 日	金屋遺跡（南魚沼市） 下割遺跡（上越市）	埋文コラム「鎌倉時代～室町時代のすり鉢」 新潟県埋蔵文化財センター　校外学習・出前授業・職場体験のご案内	沖ノ原遺跡 （津南町）

■ 年間パンフレット

埋文センターが行う普及事業を紹介する令和２年度年間パンフレットを 20,000 枚作成し、来館者や県内外の博物館等の施設に配付した。

■ ホームページ・メールマガジン・Facebook・Twitter・YouTube

埋文センターホームページでは、センターの施設紹介、展示案内、利用案内、企画展・講演会・体験イベントなどの催しもの案内、校外学習の案内、各種申請書類のダウンロードを掲載した。事業団ホームページでは、事業団の組織・業務の公開のほか、発掘調査状況、各発掘調査現場での現地説明会の案内、刊行図書等の情報を掲載した。４月から 2021 年３月までのアクセス数は 21,954 件であった。

メールマガジンは講演会や体験イベントなどの情報を随時配信した。Facebook・Twitter はこれに加え、展示品の紹介や速報性の高い情報などを随時配信した。メールマガジンは登録数 31 件、Facebook はフォロワー数 699 件、Twitter はフォロワー数 1,056 件である。

YouTube は企画展や常設展の紹介動画を配信した。６月から開始して３月までに８本を配信し、総視

聴回数は 2,194 回、チャンネル登録者数は 52 人であった。

8 図　　書

埋文センターの資料室では、新潟県内を中心に全国の発掘調査報告書、考古学関係の雑誌など 84,538 冊を所蔵し、平日にどなたでも閲覧することができる。事業団では、図書の受入れ・整理作業、閲覧・複写の対応などを行っている。令和 2 年度は 2,300 冊を受入れ、外部利用者は 93 人であった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3 月 2 日から 5 月 25 日まで閉室した。新規受入図書一覧及び県内市町村別発掘調査報告書等目録は、事業団ホームページに掲載している。

（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団資料室　蔵書・利用統計

蔵　書　統　計

年　度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R 2 年度
新刊受入冊数	3,171	2,702	2,674	2,360	2,450	2,450	2,320	2,361	2,250	2,220	2,300
累　積　冊　数	60,451	63,153	65,827	68,187	70,637	73,087	75,407	77,768	80,018	82,238	84,538

外部利用者数（※ 2020 年 3 月～ 5/25、新型コロナウィルスの為、センター閉館）

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R 2 年度
市町村教委埋蔵文化財担当者	36	41	45	34	36	30	29	19	15	13	14
大学生・大学院生・大学関係者	31	56	24	23	6	13	10	17	8	10	9
小学生・中学生・高校生	0	21	2	0	0	0	0	0	0	3	1
教　　員	3	1	4	1	1	1	0	1	0	2	1
埋文関係民間企業	47	92	91	49	50	19	33	24	13	11	6
その他埋蔵文化財関係者	26	46	51	71	24	30	21	32	49	21	23
一　　般	13	9	16	19	25	25	18	6	16	19	39
合　計	156	266	233	197	142	118	111	99	101	79	93

外部利用者コピー機使用件数・枚数（※ 2020 年 3 月～ 5/25、新型コロナウィルスの為、センター閉館）

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R 2 年度
コピー件数	102	168	143	107	90	53	67	49	38	43	39
コピー枚数	6,553	14,558	7,841	7,473	4,606	1,858	3,002	2,177	2,369	2,210	1,511

Ⅳ　研修・各種委員会

1　職　員　研　修

(1) 調査課、普及・資料課研修

埋蔵文化財専門職員としての資質・能力向上を目的に、文化庁・新潟県教育委員会などが実施する各種研修会・講習会に参加した。

ア　文化庁

令和２年度埋蔵文化財担当職員等講習会（令和２年８月26日オンライン配信）　参加者４名

講義１　「埋蔵文化財保護行政の現状と課題」

講義２　「埋蔵文化財保護行政における人材育成について」

講演３　「大学における人材育成と埋蔵文化財行政」

講義４　「水中遺跡保護に関する取り組みについて」

令和２年度第２回埋蔵文化財担当職員等講習会（令和３年２月３日オンライン配信）参加者４名

シンポジウム「埋蔵文化財保護行政における保存と活用XVII

－埋蔵文化財を地域に活かすための第一歩－」

趣旨説明

講義１　「埋蔵文化財を活かしたブランド戦略」

講義２　「埋蔵文化財を地域コミュニティーに活かす」

講演３　「埋蔵文化財を楽しんでもらうための取り組み」

講義４　「埋蔵文化財を広め楽しんでもらうための取り組み」

パネルディスカッション・まとめ

イ　県教育委員会　市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修

研修①「脆弱遺物の取り扱い －保存処理の現状と課題－」

（令和２年12月11日　新潟県埋蔵文化財センター研修室　参加者３名）

講　義　「新潟県埋蔵文化財調査事業団が実施する保存処理の現状と課題」

実　習　「保存処理の実際」　　意見交換「保存処理の課題と今後の展望」

研修②（令和３年２月18・19日　新潟県庁　参加者７名）

【2月18日】

1）文化行政課報告

報告①「補助金事務、届出・通知等」、報告②「国・県指定文化財の取扱、留意点等」

報告③「普及啓発事業について」

2）研修テーマ１（埋蔵文化財の把握と周知）

①　趣旨説明　　②「新発田市における周知と把握の方法」

③「柏崎市における周知と把握の方法」　　④　質疑応答、意見交換

【2月19日】

3）文化行政課報告

報告④「新潟県における埋蔵文化財保護行政の現状と課題」

4）研修テーマ２（文化財保護法改正を考える）

① 報　　告「新潟県文化財保存活用大綱の策定とその後の取り組み」

② 講 演 1「埋蔵文化財保護行政の現状と課題」

③ 講 演 2「市から見た文化財保護法改正と地域計画の作成」

④ 講 演 3「文化財保護法改正と文化財の総合的保存活用」

⑤ 意見交換「保護法改正に地方自治体はどう取り組むか

⑥ 講　　評

2　安全衛生委員会

(1) 委　員　会

調査現場及び作業場の安全点検、労務災害・交通災害の予防や安全衛生教育の企画立案などをテーマに委員７名で構成する委員会を年間 11 回開催した。

(2) 研修・講習

ア　救急法講習（令和２年 11 月６日午後　全職員対象）

［内　容］ 救急法「きず、骨折の手当」

［講　師］ 日本赤十字社新潟支部　指導員

イ　消防訓練（令和２年 11 月６日午前　内勤職員対象）

火災時の行動、非常口・消火設備の配置と使用方法の確認について、消防用設備保守点検委託会社社員の指導を得て、講習・実習・実施訓練を行った。

［内　容］ 1　通報訓練　　2　避難・誘導訓練

3　非常持ち出し訓練　　4　消化器・消火栓使用訓練

［講　師］ 新潟ニッタン（株）　社員

(3) 巡視・点検

事務作業環境の安全・衛生管理を目的として、委員が発掘調査現場及び埋蔵文化財センター内を巡視・点検し、担当職員や委託業者に対して改善事項等の指示・指導を行った。

ア　発掘調査現場（8 か所）

令和２年 6 月 9 日　竹ノ下遺跡

6 月 12 日　舘遺跡Ⅱ、古屋敷割遺跡Ⅱ、下割遺跡Ⅷ

8 月 20 日　上野遺跡Ⅳ

9 月 8 日　金屋遺跡Ⅳ

9 月 15 日　丘江遺跡Ⅸ

11 月 19 日　山崎遺跡Ⅳ

イ　埋蔵文化財センター

令和２年 11 月 27 日　職場内巡視

(4) そ　の　他

交通規則の遵守・事故防止について、職員会議などの場で適宜注意を喚起した他、交通事故防止の DVD 鑑賞を実施するなど、交通安全（安全運転）の徹底を図った。

Ⅴ　市町村及び関係機関等への協力

	協　力　内　容	協　力　先	期　日	担当者
1	仮称津南町埋蔵文化財センターおよび令和３年度企画展の共同研究・展示協力	津南町教育委員会	令和２年６月１日～ 令和３年11月30日	田中祐樹
2	科研費・基盤研究Ｓ「年輪酸素同位体比を用いた日本列島における先史暦年代体系の再構築と気候変動影響評価」	名古屋大学・大学院環境学研究科	令和２年６月14日	荒川隆史
3	釜蓋遺跡出土土器整理指導	上越市埋蔵文化財センター	令和２年６月17日	滝沢規朗
4	曽我墓所遺跡調査・整理指導	新潟市文化財センター	令和２年６月30日	春日真実
5	道正遺跡調査・整理指導	新潟市文化財センター	令和２年８月24日	滝沢規朗
6	上越市舘遺跡見学対応	三和区まなびの会	令和２年８月26日	飯坂盛泰
7	上越市舘遺跡見学対応	大潟町小学校	令和２年８月27日	飯坂盛泰
8	新潟県考古学会連絡誌第125号記事執筆（2020年度春季企画展「縄文の巨木柱とマツリ －糸魚川市寺地遺跡－」）	新潟県考古学会	令和２年９月５日 刊行	荒川隆史
9	鬼倉遺跡・花立遺跡出土土器整理指導	加茂市教育委員会	令和２年９月16日	春日真実
10	西岩野遺跡発掘調査の現地指導	柏崎市教育委員会	令和２年10月27日	滝沢規朗
11	秋の読書週間記念事業における講演会講師	新潟県立図書館	令和２年11月７日	荒川隆史
12	道正遺跡調査・整理指導	新潟市文化財センター	令和２年11月19日	滝沢規朗
13	第32回新潟県考古学会大会調査報告「村上市上野遺跡」	新潟県考古学会	令和２年11月29日	石川智紀
14	第32回新潟県考古学会大会調査報告「南魚沼市坂之上遺跡」	新潟県考古学会	令和２年11月29日	田中祐樹
15	史跡城の山古墳の整備基本計画書策定に係る内容検討	胎内市教育委員会	令和２年12月３日	滝沢規朗
16	令和２年度市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修講師 講義「新潟県埋蔵文化財調査事業団が実施する保存処理の現状と課題」 実習「保存処理作業の実際」（施設見学）	新潟県教育庁文化行政課	令和２年12月11日	滝沢規朗
17	出土銭貨第41号原稿執筆「境塚遺跡一括出土銭」	出土銭貨研究会	令和２年12月21日 刊行	飯坂盛泰
18	秋葉遺跡・原遺跡・細池寺道上遺跡出土石器についての指導	新潟市文化財センター	令和３年１月６日	鈴木俊成
19	佐渡市内遺跡整理指導	佐渡市教育委員会	令和３年２月17日	滝沢規朗
20	古代城柵官衙遺跡検討会第50回記念資料集刊行委員会委員就任	古代城柵官衙遺跡検討会	令和２年２月～ 令和６年２月	田中祐樹
21	令和２年度古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会及び確認調査指導員会オブザーバー	新潟市文化財センター	令和３年３月15日 （書面開催）	滝沢規朗
22	新潟県考古学会連絡誌第128号記事執筆（第24回遺跡発掘調査報告会　シンポジウム「上野遺跡と土石流」）	新潟県考古学会	令和３年４月 刊行	石川智紀

公益財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団年報

令和 2 年度

印刷　2021（令和 3）年 8 月 24 日

発行　2021（令和 3）年 8 月 27 日

編集発行　公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒 956－0845　新潟県新潟市秋葉区金津 93 番地 1
TEL　0250－25－3981

印　　刷　有限会社不二出版
TEL　024－932－0111